

2023

設立65周年記念

近畿双松会報

—2023(令和5年度)—

(旧) 島根県立松江中学校

島根県立松江高等学校

島根県立松江北高等学校



設立65周年記念「総会・講演会・懇親会」全員集合記念写真 2023. 12. 10

2023(令和5)年度 近畿双松会設立65周年記念会報

目 次

2023(令和5)年度 設立65周年記念「総会・講演会・懇親会」次第	3
2023(令和5)年度「役員会」「総会・講演会・懇親会」報告	4
テーブル集合&スナップ写真	7
2023(令和5)年度 設立65周年記念「総会・講演会・懇親会」出席者名簿	11
総会議事(1) 活動事業報告	12
総会議事(2) 会計・監査報告	13
総会議事(3) 2023(令和5)年度 近畿双松会役員	14
ご挨拶	15
近畿双松会 松本会長 双松会 櫻井会長 松江北高等学校 木原校長	
会長退任のご挨拶 会長就任のご挨拶	16
近畿双松会 第9代会長 松本 耕司 (16)	
近畿双松会 第10代会長 徳田 完二 (24)	
近畿双松会設立65周年「記念講演会」	17
小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)、今を生きる！ 小泉八雲記念館館長 小泉 凡 氏	
2023(令和5)年度 松江北高校十大ニュース	24
2023(令和5)年度 諸行事報告	26
同期会だより	28
近況報告・自己紹介・所感集	30
近況報告(緊急追加版)「大きな賞をいただいて」 安達宏昭(43)	36
65周年記念号特集投稿	37
伴 稔也(9) 佐和田 丸(10) 湯川 好満(11) 押田 良樹(11)	
川上 克彦(14) 小泉 勝是(14) 松本 耕司(16) 森藤 哲章(16)	
岩田 一志(19) 池田喜美代(19) 山崎麻里子(20) 鶴羽 孝子(22)	
村田 貢(22) 山崎 徹(23・理2) 渡辺 都(23) 徳田 完二(24)	
贈る言葉 松本耕司君(前会長)に感謝して 森藤 哲章(16)	60
2023(令和5)年度「運営費支援、寄付・広告」ご協力者ご芳名	62
広告	63
編集後記	裏表紙

■近畿双松会の歴史■

近畿双松会の創設は大正末期にも遡ると言われ、以来、近畿在住の旧制松江中学校卒業生有志により毎年会合を催し親睦がはかれてきました。戦争により活動は一時中断されましたが、昭和33(1958)年に再設立され、その後、新制の松江高等学校・後継の松江北高等学校卒業生の同窓会と統合。令和5(2023)年には設立65周年を迎え、歴史と伝統を伝えて“新しい時代”に向かいます。

2023（令和5）年度 設立65周年記念

近畿双松会「総会 講演会 謝恩懇親会」次第

2023年12月10日（日）AM11時半～PM3時半、中央電気倶楽部5Fホール（受付開始：11時）

◆第一部「令和5年度総会」（11時半～12時） 司会 山口紀子 副会長（高23）

1. 開会の辞：
2. 物故者黙祷：
3. ご挨拶：近畿双松会 松本耕司 会長（高16）
4. 議長の選任：（議事報告 宍道弘志 副会長・事務局長（高31））
5. 議事：（1）活動報告
：（2）会計報告 ※監査報告：鶴羽孝子監事（高22）
：（3）役員の選任 ※選任経緯報告：松本会長
6. 役員退任・就任の挨拶：会長退任、会長・副会長就任
7. 感謝状贈呈：近畿双松会 第9代会長 松本耕司 様
8. 閉会の辞：

◆第二部「設立65周年記念講演会」（12時～12時45分） 講師紹介 松本会長

・演題：^{ラフカディオ ハーン}「小 泉 八雲、今を生きる。」

・講師：小泉 凡 様（小泉八雲記念館館長、島根県立大学短期大学部名誉教授）

（ご略歴：1961年東京都出身、小泉八雲曾孫、成城大学（院）修了、専門は民俗学）

<休憩（10分）>

◆第三部「謝恩懇親会」（12時55分～15時半）

司会 野口博也 幹事（高27）、宍道弘志 事務局長

1. 開会の辞：
2. ご来賓・講師紹介：櫻井誠己様（高20・双松会会長） 景山直観様（高31・同幹事長）
石原俊太郎様（高35・同副幹事長） 木原和典様（松江北高等学校校長）
毛利信二様（高27理6・東京双松会会長） 森岡正士様（高31・同事務局長）
木村恵吉様（近畿松江会副会長） 竹谷 奨様（同副会長・事務局長）
小泉 凡様（講師・小泉八雲記念館館長）
3. ご来賓ご挨拶・祝辞：双松会 櫻井誠己 会長
島根県立松江北高等学校 木原和典 校長
4. 乾杯：（音頭）双松会 景山直観 幹事長
5. 会食・懇親・スピーチ：
毛利信二様 竹谷 奨様 押田良樹様（高11） 三浦 清様（高27）
6. （14:35～15:15）「謝恩大福引大会」（進行 松村 聡 副会長（高26・理5））
7. 校歌斉唱（全曲）：※赤山健児の歌 ※山脈浮かびて
8. 万歳三唱（発声）：梅木隆志様（高16）
9. 全員集合記念写真撮影：
10. 閉会の辞：

<終了（解散）：15時30分>

■2023 年度「役員会」報告

- ・日時／令和5年4月8日(土)11時～15時
- ・会場／中央電気倶楽部

会則第8条により役員会を開催し、本年度の運営方針について意見交換し、了承されました。

◆主な内容(活動骨子)：

65周年を有意義に祝い、次代につなぐ！

- ①「65周年“記念総会・講演会・懇親会”の充実開催と、参加者の拡大
- ・65周年に相応しい講師の人選
- ・郷土産品福引大会の検討
- ②「中堅・若手の参加拡大」を図って、次代につなぐ
- ・「次代につなぐオルグ活動」を事務局主導で推進
- ③コロナ後に向かう体制、財務基盤の整備
- ・会報制作費、発送費用の圧縮等
- ④諸行事の完全再開、安定開催
- ⑤その他
- ・65周年「記念会報」を発行（来年度以降の会報発行は、その都度、単年度で判断）
- ・メールマガジンとLINE@の受信参加者の拡大
- ・次代の運営・役員体制の確立

●参加役員は下記の25名(敬称略)

【常任顧問】押田良樹(11)【顧問】三好資子(20)【会長】松本耕司(16)【副会長】山口紀子(23)徳田完二(24)松村聡(26)理5)宍道弘志(31)【監事】鶴羽孝子(22)周藤達夫(26)【常任幹事】加藤巡一(14)金坂喜好(15)岩田一志(19)山崎麻里子(20)小敷賀健二(20)村田貢(22)松本幸子(23)富岡幸子(35)【幹事】田村稔久(6)逸見充宏(9)面白紘(10)田中一男(11)池田喜美代(19)内藤善夫(22)野口博也(7)今西亜子(43)理22)



令和5年4月8日 役員会

■2023 年度 設立 65 周年記念

「総会・講演会・懇親会」報告

- ・日時／令和5年12月10日(日)11時半～15時半
- ・会場／中央電気倶楽部 5F ホール

今年は、当会が戦後に復活発足した昭和33年から65周年目の節目を迎える記念の会となりましたが、昨年、3年ぶりに総会を開催して73名の参加をいただいたことも基盤となって、103名の出席があり、謝恩の大福引大会も行っており、盛会裡に65周年を祝いました。

(1)第一部：「総会」 P3「式次第」掲載

総会は山口紀子副会長(23)の司会で始まり、物故者黙祷の後、松本耕司会長(16)からご出席に感謝する開会ご挨拶がありました。(P15別掲)

続いて会長が議長となって総会議事に移り、宍道弘志事務局長(31)から、議事(1)「活動報告」(P12別掲)があり、続いて議事(2)「会計報告」と鶴羽孝子監事(22)による「監査報告」(P13別掲)があり、承認されました。

続いて、議事(3)「役員選任」(P14別掲)に移りました。2000(平12)年から23年にわたり役員を務め、また2014(平26)年からの9年間、第9代会長として本会の運営、発展に尽力された中でも、特にこの3年間はコロナ禍からの活動再開に向けリーダーシップを発揮された松本会長から、本総会をもって会長を退任したいとの申し出がありました。さらに、徳田完二副会長(24)を新会長に推薦したい旨のご発言があり、お人柄の紹介と、会則に定める会長選出の手続きをすべてクリアしているとの報告がありました。

この会長退任・就任(案)は満場一致で承認されました。

同時に新たな副会長に野口博也幹事(27)の就任、ならびに松本会長の常任顧問、松本潤副会長(23)の顧問就任も承認されました。

また、新たな各期幹事に 3 名の方が就任されることも紹介されました。

◆役員退任・就任の挨拶、感謝状の贈呈

続いて、松本前会長の退任挨拶、徳田新会長、野口新副会長の就任挨拶があり、それぞれ盛大な拍手が送られました。

さらに、松本前会長には、徳田新会長から「感謝状」を贈呈し、会場からも感謝と慰労の拍手が送られ、松本前会長からは御礼のご挨拶がありました。

(前・新会長の挨拶は、P16 別掲)

(2) 第二部:「記念講演会」 ※詳細 P17 掲載

最初に松本前会長から、65 周年記念講演をどなたにお願いするかを検討した時、「小泉八雲、ヘルン先生の曾孫でいらっしゃる小泉八雲記念館館長の小泉凡先生にお願いをしたい」とも二もなく考えたこと。また、ヘルン先生が旧制の松江中学で授業を開始されたのは、133 年前の明治 23 年 9 月 3 日と記録にあり、その時に私たちの先輩たちが感じたものが何であったかに、思いをいたせたらと思つてのご依頼だった」とのご紹介がありました。

そして、小泉凡先生が選ばれたテーマは「小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)、今を生きる！」でした。

講演では豊富なプロジェクター画面を使つての貴重なお話をお聴きすることができました。詳細は別掲でぜひご覧ください。

講演に、また別掲資料のまとめにご協力をいただきました小泉凡先生には心より御礼を申し上げます。

(3) 第三部:「謝恩懇親会」

謝恩懇親会は宍道弘志事務局長(31)、野口博也新副会長の共同司会で始まり、まず、ご来賓(P11 別掲)を歓迎の拍手で迎えた後、新しく双松会の会長になられた櫻井誠己(シゲキ)様(20)と松江北高校木原和典校長よりご挨拶と 65 周年へのご祝辞を頂戴しました。

(ご挨拶・ご祝辞は、P15 別掲)

その後、同じく新しく双松会の幹事長になられた景山直観様(31)のご発声による乾杯で会食・懇親に移り、テーブル内外、先輩後輩、入り混じつての楽し



い、なごやかな時間を過ごしました。

なお、櫻井新会長は「奥出雲たたらご三家」のお一つのご出身で、話題のテレビドラマ「VIVANT」では、お家がドラマの舞台として登場したばかりで、何かと話題の多い初のご参加となりました。

◆スピーチ

途中、以下の方からスピーチをいただきました。

(1) 新しく東京双松会の会長になられた毛利信二様(住宅金融支援機構理事・27 理 6)からは、本会の 65 周年へのお祝いの言葉に加え、国土交通省事務次官の退任直前に島根県を含む西日本豪雨水害があり、インフラの応急復旧や被災者の支援に携わった経験を経て、現在は住宅金融支援機構で仕事をしているとの自己紹介をいただきました。



タイガースの優勝から大阪・関西万博へと、来年も関西のブームが続くのではないかと期待を述べられ、近畿双松会の発展と、会員の健康、家族の健勝をお祈りいただきました。

(2) ふるさと会である近畿松江会の竹谷奨(スム)副会長(近畿松江会の会長は本会の松本耕司常任顧問)からは、当会との深い関係に触れられ、65 周年へのお祝いと、松江会はまだ創設 18 年だが今後ともよろしく願いたいとのご挨拶がありました。



(3) 続いて、押田良樹常任顧問(11)から小泉凡先生のご講演に対する謝辞がありました。

「へるんファン」の押田様としては、ハーンが Hearn を「へるん」と読まれても何も言わなかったのもオープンマインドの表れだと思つた話をされ、小泉凡先生に、今後とも松江とヘルン先生の精神の紹介活動にご活躍くださいとのお願いをされました。



(4)最後に、12 人の初参加者を代表して三浦清様(27)からは、自身の定年退職など人生の節目を迎えたこと、同期の誉れである東京の毛利さんが出席と聞いたことが、初参加の動機だったことや、27 期はまだまだ若いと実感し、先輩方の熱心な姿勢を見倣いたいとお話をいただきました。



◆「謝恩大福引大会」

その後、お待ちかねの「大福引大会」に移りました。5 年ごとの周年記念総会では必ずやろうと、5 年間、原資の確保に努めた結果、55 周年、60 周年、今回と 3 回連続で開催することができました。

郷土製品の買い付けも当日の司会も今回の責任者は松村聡副会長(26 理 5)で、過去 2 回を担当された梅木隆志顧問(16)が助言、監修をする体制で実施し、8 月 6 日の事務局会議で、賞品はふるさとの産品とすることや、予算は 30 万円程度とすることが確認されました。



また、これまでの経験から賞品を各店舗から個別調達するのではなく、今回は島根県物産観光館でまとめて調達することとしました。

さらに 9 月 3 日には担当者が集まり、賞品調達、総会での抽選と賞品の受け渡し方法などを調整し、11 月

65周年記念福引大会景品一覧

等級	品 目	本数
1 等	出雲國仁多米 新米 5kg×2袋	5
2 等	しまね和牛肩ロース すき焼き用	5
	出雲煎茶 ショコラテリーヌ	5
3 等	ふぐ・のどぐろ一夜干し	5
	松江地ビール ビアへるん 金賞6瓶セット	5
	スーパープレミアムアイス VANAGA 8個入り	5
4 等	ラフカディオ珈琲 ドリップパック詰合せ	10
	いずものしじみ 調味料詰合せ	5
5 等	李白 縁酔セット	5
	デラウェア スパークリングワイン	5
	出雲そばギフトB	5
	書籍 怪談づくし	10
6 等	しまねっこマスコット ボールチェーン	10
	KOJIKI (古事記) キャンバストート ピカピカウサギ	10
7 等	宍道湖しじみパイ (大)	10
	皆美の飛魚だし醤油	10
	いずもちよっこし袋 出雲大社版	10

26 日の総会直前打合せで最終確認を行い、12 月 10 日の総会当日を迎えたという次第です。

前回と同じく 1 等を「仁多米」とするなど、過去好評だった賞品を中心に構成しましたが、「干し柿」「あご野焼」などは前回同等のものが入手できず、外したものもあります。また、重量があるもの、温度管理が必要なものは、実物賞品ではなく目録を会場で渡すことにしました。

今回の賞品のもう一つの目玉は、当日記念講演された小泉凡先生のご協力でいただいた著書「怪談づくし」のサイン本 10 冊で、こ



(中) 小泉凡先生 怪談ファンになります！

でしか入手できない貴重なもので大変好評でした。

出席の皆さんは、もれなく 1 等から 7 等までの郷里ゆかりの賞品が当たり、65 周年を祝い合うよい福引大会となりました。

◆校歌斉唱

いつの間にか所定の時刻が近づき、有志の方々が



壇上に上がり、力強く「赤山健児の歌 朝日直(タ)さす」と「山脈うかびて」を歌い上げました。

◆万歳三唱

そして、今年の当番期である 16 期の梅木隆志顧問



のご発声で、近畿双松会のますますの発展と参加者のご多幸を願って力強く万歳を三唱しました。

◆全員集合記念写真撮影 & 解散

最後は吉例となった全員集合の記念写真です。手際よくと言いたいところですが、予定していた映写室の窓が使えず、急遽、脚立を立てることになりました。しかし、心配ご無用、その楽しそうな出来上がりは表紙にあしらいましたのでご覧ください。

※表紙、ならびに P7～10 に写真掲載

かくして、設立 65 周年記念「総会、講演会、謝恩懇親会は無事、有意義に終了することができました。

5 年後の 70 周年を楽しみに、また一年一年を頑張っていきたいと思います。

皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

◆当日ご協力をいただいた皆さんを下記に紹介します。(期順・敬称略)

押田良樹(11) 梅木隆志・松本耕司(16)
岩田一志(19)
小数賀健二・三好資子・山崎麻里子(20)
鶴羽孝子(22)
朝比奈博則・松本潤・松本幸子・山口紀子(23)
伊藤澄夫・徳田完二(24)
加藤茂樹・周藤達夫・福岡則博・松村聡・
前羽香江・矢野美紀子(26)
高濱賢二・野口博也・三原均・木田京子・
新宮富美子(27)
山本修司(29) 宍道弘志・中倉行彦(31)
田黒公司(32) 富岡幸子(35) 今宮一正(36)
原島章・今西亜子(43)

(お名前の記載モレがありましたら、事務局までご一報ください)

■テーブル集合&スナップ写真



ご来賓、11 期



16・32 期



9 期



17 期



19 期



29 期



23 期 最多出席の 10 名



34・35・38・39 期



26 期



36 期・43 期



27 期



受付チーム



言うことを聞いてくれるかなあ？



マジメに いこうぜ！ (2)



マ、今日はいきましょう



マジメに いこうぜ！ (1)



みんな、楽しそうだねえ



(左) 近畿の野口新副会長 (右) 東京の毛利新会長は27期同期



福引 当たり！ 狙い目どおり



松江、東京、近畿の事務局長&31期、集合



福引 大当たり！ この喜びようはアレしかない！



(左) 小泉凡先生 だいそがし！



渾身の校歌斉唱！



表紙の集合写真の裏に涙ぐましい努力が・・・

2023(令和5)年度近畿双松会設立65周年記念「総会・講演会・懇親会」 出席者名簿

ご来賓

卒業期	氏	名	
高21	櫻井	誠己	双松会会長
高31	景山	直観	双松会幹事長
高35	石原	俊太郎	双松会副幹事長
浜田高校	木原	和典	松江北高校校長
高27・理6	毛利	信二	東京双松会会長
高31	森岡	正士	東京双松会事務局長
松江商業	木村	恵吉	近畿松江会副会長
松江高専	竹谷	奨	近畿松江会副会長・事務局長

会員

卒業期	氏	名	旧姓	卒業期	氏	名	旧姓	卒業期	氏	名	旧姓
高6	田村	稔久		高17	岩本	眞左子	万波	高26	福岡	則博	
高6	森岡	敏眞		高18	小田	一美		高26・理5	松村	聡	
高6	石原	綏子	河津	高18	桑原	勇		高26	前羽	香江	幡
高7	青戸	俊夫		高19	岩田	一志		高26	矢野	美紀子	難波
高7	廣政	俣彦		高19	新見	泰朗		高27・理6	北野	善將	
高9	澄川	光成	伊藤	高19	万波	迪義		高27	高濱	賢二	
高9	田中	英明	小立	高19	元栄	徹	成相	高27	野口	博也	
高9	伴	稔也		高19	池田	喜美代	川原	高27	三浦	清	
高9	逸見	充宏		高20	小数賀	健二		高27	三原	均	
高11	押田	良樹		高20	三好	資子	恩田	高27	吉田	勸	
高11	志賀	潔		高20	山寄	麻里子	木村	高27	木田	京子	能海
高11	田中	一男		高22	実重	祐二		高27	新宮	富美子	新川
高13	藤田	トク子	小笹	高22	内藤	善夫		高29	達山	暢	
高13	水田	昭子	大村	高22	永瀬	光一郎		高29	福本	秀一	
高13	水野	明代	長妻	高22	鶴羽	孝子	石橋	高29	山本	修司	
高13	山下	俱子	今井	高22	西村	紀子	松本	高29	須藤	聖子	
高14	川上	克彦		高23	朝比奈	博則		高29	浜野	則子	田中
高14	木村	修芳		高23	近藤	文雄		高31	宍道	弘志	
高14 (山口高)	小泉	勝是		高23	松本	潤		高31・理10	中倉	行彦	
高14	木幡	晃正		高23・理2	山崎	徹		高32	田黒	公司	
高14	三好	洋二		高23	橘	千里	小倉	高34	山岡	雅仁	
高15	金坂	喜好		高23	西村	充子	平野	高34	池田	香澄	板持
高15	真庭	功		高23	松本	幸子		高35	富岡	幸子	三和
高16	井上	伸久		高23	山口	紀子	宮崎	高36	今宮	一正	
高16	梅木	隆志		高23	吉岡	恵子	増本	高36	高野	直樹	
高16	神田	俊之		高23	渡辺	都	野坂	高36	森口	次郎	
高16	佐々木	康雄		高24	伊藤	澄夫		高36	柴田	和代	相見
高16	松本	耕司		高24	徳田	完二		高38	長谷川	浩之	
高16	森藤	哲章		高26	岩谷	智志		高39	三宅	紀子	岩坂
高17	岡	久夫		高26	加藤	茂樹		高43	原島	章	
高17	小脇	光男		高26	川谷	徳彦		高43・理22	今西	亜子	井山
				高26	周藤	達夫					

以上103名

<総会議事1> 近畿双松会 活動事業報告

(以下★印⇒新型コロナウイルス感染の影響を受けたもの)

◆2022（令和4）年度

11月	26日	土	令和4年度「総会・講演会・懇親会」（3年ぶりに開催） （於：中央電気倶楽部、参加者はご来賓含め73名） （講演：土岐 祐一郎 氏（高30（理9）期、大阪大学消化器外科学教授） 演題は「外科医として消化器癌と戦う」
12月	18日	日	メールマガジン”さんみゃくうかびて”第150号を配信
1月	15日	日	★第5回宝塚歌劇鑑賞会（40名参加予定、於：宝塚大劇場） ⇒劇場スタッフの新型コロナ感染により、直前で公演中止
2月	12日	日	新年「事務局会議」開催
3月	2日 31日	木 金	北高卒業生に双松会入会式で「メールアドレス登録」を要請（東京双松会共同） 令和4年度「会報」の発行 令和4年度会計年度終了

◆2023（令和5）年度

4月	1日	土	令和5年度事業・会計開始
	8日	土	令和5年度役員会開催（参加25名）
	16日	日	第13回落語鑑賞会（参加37名、於：天満天神繁昌亭）
	23日	日	令和4年度「会報」と新年度事業のお知らせ発送
7月	23日	日	第16回文楽鑑賞会（参加25名、於：国立文楽劇場）
8月	6日	日	総会開催に向けて事務局会議を開催（顧問・会長・副会長ほか参加）
10月	1日	日	総会開催案内発送（10名で対応）
	14日	土	東京双松会総会（宍道事務局長表敬出席）
	22日	日	新ハイキング「比叡山坂本～石積みのある門前町～」（参加22名）
11月	26日	日	総会開催直前事務局打ち合わせ会議開催
12月	10日	日	令和5年度 設立65周年記念「総会・講演会・懇親会」 （於：中央電気倶楽部、参加者はご来賓含め103名） ・講演：小泉 凡氏、小泉八雲記念館館長、島根県立大学短期大学部名誉教授 演題：「小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）、今を生きる。」 ・設立65周年記念謝恩大福引大会
	23日	土	令和5年度「設立65周年記念会報」企画・編集会議
2月	11日	日	今年度予定の第5回宝塚歌劇鑑賞会（於：宝塚大劇場）は見送り 「事務局会議」開催
3月	31日	日	第14回落語鑑賞会（参加32名、於：天満天神繁昌亭） 令和5年度「設立65周年記念会報」の発行 令和5年度会計年度終了

※HPアクセス件数；2024.03.10現在、63,084件

前年+3,889件（2023.03.24現在 59,195件）

※メールマガジン”さんみゃくうかびて”：2024.03.10現在 195号まで配信

前年+32号（2023.03.24現在 163号まで配信）

※12月10日以降の内容は総会後に修正

◆2022（令和4）年度近畿双松会会計決算書

2022（令和4）年4月1日～2023（令和5）年3月31日

（単位：円）

収入の部	支出の部
◎ 前期繰越金 1,950,647	◎ 支出計 1,843,007
◎ 収入計 1,704,200	・ 通信費 347,750
・ 令和4年度運営費支援収入 579,000	・ 印刷費 181,830
・ 同、寄付・広告収入 327,000	・ 事務費 96,138
・ 令和4年度総会参加費 572,000	・ 郵便、銀行手数料等 33,489
・ 令和4年度諸行事参加費収入 139,200	・ 令和3年度会報費 321,200
・ 令和4年度役員会参加費 87,000	・ 令和4年度会報費 55,058
・ 利子収入 0	・ 令和4年度総会費 555,949
	・ 令和4年度諸行事支払い 143,820
	・ 令和4年度役員会会議費 107,773
	◎ 次期繰越金 1,811,840
	・ 内訳
	（郵便貯金振替残）1,668,340
	（郵便貯金）132,865
	（現金）10,635
◎ 総合計 3,654,847	◎ 総合計 3,654,847

繰越金前年比 ▲138,807

上記のとおり報告いたします。

事務局長 宍道 弘 志 ㊞

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2023（令和5）年 4月 8日

監事 鶴 羽 孝 子 ㊞

監事 周 藤 達 夫 ㊞

<総会議事3>

近畿双松会役員 (2023.12.10付け)

2023年12月6日役員会承認

※新しい(役)の方

(役)	(期)	(氏名)	(役)	(期)	(氏名)
常任顧問	高7	山本 雅昭	常任幹事	高18	小田 一美
常任顧問	高11	押田 良樹	常任幹事	高19	岩田 一志
※常任顧問	高16	松本 耕司	幹事	高19	池田 喜美代
顧問	高16	梅木 隆志	常任幹事	高20	山寄 麻里子
※顧問	高23	松本 潤	常任幹事	高20	小数賀 健二
※会長	高24	徳田 完二	常任幹事	高22	村田 貢
副会長	高23	山口 紀子	幹事	高22	内藤 善夫
副会長	高26・理5	松村 聡	常任幹事	高22	大浦 綾子
※副会長	高27	野口 博也	常任幹事	高23	松本 幸子
副会長 兼・事務局長	高31	宍道 弘志	幹事	高24・理3	岩間 令道
監事	高22	鶴羽 孝子	※幹事	高24	伊藤 澄夫
監事	高26	周藤 達夫	幹事	高25	小林 宏
幹事	高1	荏田 運三郎	幹事	高27	新宮 富美子
幹事	高2	堀江 眞三人	幹事	高29	山本 修司
常任幹事	高5	山田 稔	幹事	高30・理9	千葉 潮
幹事	高6	田村 稔久	幹事	高31	小林 満
幹事	高9	逸見 充宏	※幹事	高31・理10	中倉 行彦
幹事	高10	面白 紘	常任幹事	高32	浅沼 吉正
幹事	高11	田中 一男	常任幹事	高32	木村 滋樹
幹事	高13	永江 幹雄	幹事	高32	田黒 公司
常任幹事	高14	加藤 巡一	幹事	高33	柳井 利明
常任幹事	高15	金坂 喜好	常任幹事	高35	富岡 幸子
常任幹事	高16	土田 和男	幹事	高36	森口 次郎
幹事	高16	三成 宏二	※幹事	高36	今宮 一正
常任幹事	高17	岡 久夫	幹事	高38	長谷川 浩之
			幹事	高40	福江 直広
			幹事	高42	三好 博子
			常任幹事	高43	安達 宏昭
			幹事	高43・理22	今西 亜子

以上 54名

※なお、下記の3名の方に友誼団体「近畿松江会」の「近畿双松会推薦幹事」を委嘱。
松本幸子常任幹事(23)、宍道弘志事務局長(31)、木村滋樹常任幹事(32)

■ご逝去

幹事	高3	緒形 公士
----	----	-------

■辞任

常任幹事	高7	廣政 倣彦	顧問	高20	三好 資子
幹事	高12	萩野 貫悟	常任幹事	高20	渡辺 悟
幹事	高15	佐藤 修介	幹事	高24	糸原 直彦
幹事	高18	石賀 誠一郎			以上 8名

■開会ご挨拶（要旨）

近畿双松会会長 松本耕司 （16）



本日は天候にも恵まれました中、近畿双松会の設立 65 周年記念の会合に、こうして多数の皆様にお集まりいただき有難うございました。

ご来賓として、双松会新会長の櫻井誠己（シゲモ）様、また、ご就任早々の東京双松会の毛利信二会長様をはじめ多くの皆様にご参加いただきました。後ほどあらためてご紹介を申し上げますが、最初に厚く御礼を申し上げます。

（中略）本日は「福引」など 65 周年記念行事の予定で一杯ですので、まずはご挨拶だけとさせていただきますが、どうぞこの会が楽しくなごやかな会になりますよう、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。ご参会、有難うございました。

■来賓ご挨拶・祝辞（要旨）

双松会会長 櫻井誠己 （20）



設立 65 周年おめでとうございます。

今年 7 月に双松会の会長を仰せつかりました。

母校は 3 年後に創立 150 周年を迎えます。準備委員会を設けて活動に入っているところですが、記念の行事の成功に向け皆さんのご支援・ご協力が不可欠ですので、どうかよろしくお願いします。

私は実家が奥出雲町です。本日の福引で「仁多米」が一等賞品に選ばれていますが、たたら製鉄の鉄穴（かんな）流しのため切り崩した後に作った棚田で収穫したお米を、どうぞご愛顧ください。

また、今年、TBS 系テレビの日曜劇場で放映された「VIVANT」の主人公乃木の実家の舞台に私の実家が使われました。監督の福澤克雄氏（福澤諭吉の玄孫）は、20 年前に演出をしたテレビドラマ、松本清張の「砂の器」のロケで奥出雲を訪れて以

来、町民と親しく交流を続けており、また、本日出席の石原俊太郎双松会副幹事長（35）とは慶應大学ラグビー部の先輩・後輩のご縁もあり、北高生のために講演もしていただきました。

年末には「VIVANT」の再放送があるとのことですのでどうぞお楽しみください。

■来賓ご挨拶・祝辞（要旨）

松江北高校校長 木原和典

設立 65 周年おめでとうございます。



北高は令和 8 年に創立 150 年を迎えますが、長い伝統のある学舎で生徒諸君も様々な分野で頑張っています。お手元パンフレット「世界の人たれ」に詳細を記しておりますので、お読みください。

現在の 3 年生が入学した年から、松江市内の北高・南高・東高の通学校区が撤廃されました。当初の 2 年は市内どこからでも北高を受験できるということで、合格の難易度が高まるのではないかと、従来地区の中学生が敬遠したこともあったのか、定員割れという現象もありましたが、今年は受験者が定員を上回りました。そういうこともあってか、今年は勉強の方で大学進学は大変好成績を収めました。

一方、体育会系の部活動は従来ほどの成績は収められなかったものの、インターハイではボート部や登山部が出場して頑張りました。野球部は部員が足りず合同チームで秋の大会に臨む状況になってしまいましたが、来春には部員を増やして大会に臨めるように頑張っているところです。

文科系部活では大変良い成績を残しており、放送部、合唱部が全国的な大会に出場するなど頑張っています。先日は全日本音楽コンクール声楽部門で門脇早紀さんが高校全国一位に選ばれました。

今後とも母校のご支援をよろしくお願いします。

※参照 P24「松江北高十大ニュース」

■前会長 「退任のご挨拶」(要旨) 近畿双松会第9代会長 松本 耕司 (16)

徳田新会長から感謝状を贈呈



挨拶

思い起こしますと、2002
(平14)年の
甲子園21世
紀枠出場の
後、1期の故

和田亮介先輩、7期の山本雅昭先輩(お二人ともバレーボールの名選手でバリバリの体育会気質でいらっしゃいました)に「手伝え」と言われ、陸上部育ちで同じく体育会気質の私は、抵抗することもなく、近畿双松会のお手伝いをするようになりました。

その頃は、旧制松中の方、松高初期の方からすれば、南高と分かれてパワー半減になった北高卒の後輩たちは普通の高校育ちになってしまったという感じだったのでしょうか。歴史と伝統はうまくつながっていなかったように思います。

私と与えられたミッションも、「北高世代の入会の拡大」というもので、近畿双松会の継続のために、15期以降の北高入学世代の方々の参加拡大に、あれやこれやと必死に取り組んだことをなつかしく思い出します。その成果は残念ながら「道半ば」というしかありませんが、2年前から31期の宍道さんが事務局長を、今回、24期の徳田さんが会長をお受けいただきましたので、私も会長を退任させていただくことができたという次第です。

新しい役員の皆様は、島根県の人口、北高生徒数の減少が続く中で、決してラクな運営はできないと思いますが、会員の皆様には引き続き、我らの会「近畿双松会」へのご参加、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会長在任の9年の間、お支えいただきました皆様に心から厚く御礼申し上げます。特に、何かとご指導をいただきました山本、押田の両常任顧問様、一緒に活動をした役員の皆様、そして、総会や各行事に常にご参加いただきました多くの皆様には、心から御礼を申し上げます。私の退任のご挨拶とさせていただきます。

有難うございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

■新会長 「就任のご挨拶」(要旨) 近畿双松会第10代会長 徳田 完二 (24)

挨拶

私の24期は集まりが悪い期なのですが、だったからこそ、会長をお引き受けすることになったとも言えます。



私は長らく関西を離れていて、19年前にこちらへ戻りました。しかし、本会に関わるようになったのはそれから10年以上たってからでした。あるとき、松本会長の呼びかけで、集まりの悪い期が同期会を行う機会が設けられました。出てみると、在学中には話をしたことのない同期生が多かったにもかかわらず、楽しい時間を過ごすことができました。その勢いで総会にも出席するようになったわけです。

そのうち、まとめ役だった人が相次いで関西を去ることになり、後を頼むということで私が24期の幹事になりました。結局、コロナ禍のために同期会は開催できなかったのですが、そのころ松本会長から副会長にという要請がありました。これは次の会長を選ぶための布石だと思いましたが、引き受けることにしました。そして案の定、このたび会長にという流れになったわけです。

今、思っていますのは、これまでの65年の伝統を絶やさないようにすることです。何がどこまでできるか、正直言って分からないのですが、私なりにやるほかありません。是非皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

◆ご本人からの自己紹介資料 (抜粋)

昭和29(1954)年、島根県海士郡海士村(現、隠岐郡海士町)生まれ。御波小、海士中、松江北高を経て、京都大学教育学部入学。同、大学院教育学研究科博士課程中退後、広島大学、北海道教育大学等を経て、令和4(2022)年まで立命館大学教授。現在、同、名誉教授。専門は臨床心理学。

中学時代はブラスバンド部(トランペット)。趣味:ウォーキング。特技:漫画。性格:マイペース。生活信条:「まあ、なるようになる」。

(注) この会報の挿画は全て徳田会長の作品です。

近畿双松会設立65周年記念講演会

小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）、 今を生きる！

小泉八雲記念館館長 小泉 凡 氏



この要旨は当日のレジュメとパワーポイントの資料に基づき本会でまとめたものに小泉先生に加筆していただいたものです。

【講師のご紹介】 1961年東京生まれ。小泉八雲の曾孫。日本ペンクラブ会員。成城大学（院）修了、専門は民俗学。1987年に島根県松江市へ赴任。島根県立大学で教鞭をとりつつ、妖怪・怪談を切り口に、文化資源を発掘し観光・文化創造に生かす実践研究や、小泉八雲の「オープン・マインド」を社会に活かすプロジェクトを世界のゆかりの地で展開する。現在、小泉八雲記念館館長・焼津小泉八雲記念館名誉館長・島根県立大学短期大学部名誉教授。2023年1月、アカデミア賞（文化・社会部門）を受賞。主著に『民俗学者・小泉八雲』（恒文社、1995年）、『怪談四代記—八雲のいたずら』（講談社、2014年）、『＜日本の伝記 知のパイオニア＞小泉八雲と妖怪』（玉川大学出版、2023年）ほか。また、『小泉八雲の怪談づくし』（八雲会、2021年）において、監修・解説を担当。

講演要旨 『怪談』の著者として知られるラフカディオ・ハーン（小泉八雲1850～1904）の社会的意味が変貌を遂げています。作家の思考や事績を現代社会に活かそうという顕著な動きがみられます。「オープン・マインド」「五感力」「感染

症」「SDGs」「怪談の新しい表現」…。そんなキーワードから現代社会と呼応する新しいハーンの世界を探访します。

はじめに はじめに自己紹介をさせていただきます。私の「凡」という名は「ボナー・フェラーズ（Bonner Fellers / 1896～1973）」という人の名前にあやかってつけられました。この人はマッカーサーの側近になったアメリカ陸軍准将ですが、最晩年の八雲が日本人の精神史を綴った『Japan（邦訳名『日本—ひとつの解明』）』に感銘を受けて1935年に小泉家を訪ね、八雲の長男、小泉一雄の家族と親交を深めた八雲ファンでもあります。なお、日本の戦後処理にあたったフェラーズは、天皇訴追を回避し、象徴天皇制の扉を開くことに尽力しています。一雄が、敬愛する親友ボナーの名にあやかり、初孫の私に「凡」と命名したので

す。

八雲は、本日の会場である大阪が大好きでした。大阪には理想的な日本が残ると指摘し（和服、和風建築、四天王寺など）、東京で10年暮らすより大阪で1か月暮らす方に価値があると言っています。また、大阪人のキャラクターは際立っていて、シカゴ人と似ているとも指摘しています。今年（2023）、大阪とシカゴの姉妹都市提携50周年とうかがい、八雲の鋭い観察眼や意外な先見性が垣間見えるような気がします。

1. “The Open Mind of Lafcadio Hearn”

プロジェクト

(1) 「オープン・マインド」がもとめられる現代

八雲は「オープン・マインド」の持ち主で、「はじめから偏見をもたず、他者への公平で愛のあるまなざし」をもって行動してきた人です。言い換えれば、西洋中心でも人間中心でもなく、五感を研ぎ澄ませて対象をみつめていたと言えます。また、「オープン・マインド」は多様性（diversity）の尊重でもあり、分断・自国中心主義とは対極にあります。この八雲の「オープン・マインド」に注目したのは、ギリシャ人のタキス・エ

フスタシウ氏です。

八雲のオープン・マインド醸成の主な要因としては以下の2つが考えられます。

1 つ目は地球半周を超える世界旅行（1850～

しかし、2021年2月26日付ワシントンポストの一面に次のような記事が掲載されました。

現代に生きる黒人女性が自分の玄祖母に関する資料を発見した。その資料は、1876年4月2日付「シンシナティ・コマーシャル」の「ある奴隷の物語」という記事で、玄祖母ヘンリエッタが、奴隷解放後に受けた苦悩と訴訟に関するものだったが、著者はラフカディオ・ハーンだった。



図1

1904)。(図1参照)八雲の人生は一言でいえば「移動の人生」でした。この豊富な異文化体験が多様性を尊重するまなざしや行動を醸成したと考えられます。

2 つ目は、とくに前半生で体験した以下のようなカタストロフィ（惨劇）です。

- ① 最愛のギリシャ人の母ローザとの別れ（4歳 / アイルランド時代）
- ② 左眼失明（これにより、五感が芽生えました）（16歳 / イギリス時代）
- ③ 赤貧の暮らし（大叔母サラの破産や学校退学を経て、底辺の暮らしへの温かいまなざしが生まれました）（20歳前後 / イギリス・アメリカ時代）
- ④ マティとの結婚破綻（27歳 / アメリカ時代）
マティは白人の父と黒人奴隷の母との間に生まれた娘で、マティ自身も奴隷としてケンタッキー州で生活していました。八雲はマティに語り部の才能を見出し、恋に落ちて求婚します。白人と有色人種の結婚は、当時のオハイオ州法に反するもので、八雲は新聞社を解雇され、やがて結婚生活は破綻します。

ワシントンポストは八雲が早い時期に「奴隷制度と自由」に関する彼女の貴重な体験を読者と共有していたことを評価しています。八雲の行動は、約150年を経て、現代の価値観のなかで、評価されたのです。

⑤ 2度の感染症罹患（30代 / アメリカ・マルティニーク時代）

上記のようなカタストロフィを乗り越え、「オープン・マインド」を育んだと考えられます。

その点、八雲のまなざしは、今日のグリーフケアともつながるようです。グリーフケアとは、喪失から生じる悲嘆に苦しむ人に寄り添い、支えようとする活動です。（図2参照）2023年の春、その活動に取り組む作家の入江杏さんが、松江の私を訪ねてくださり、「ハーンも悲しみを力に変えた人だから、ぜひ、その話をして！」という依頼を受けたのです。なお入江さんは、2000年の大晦日に起こった世田谷一家殺人事件の被害者の姉にあたる方です。



2023.12.3

グリーフケア と八雲のまなざし

・世田谷一家殺人
事件の被害者の
会から、「ミシュカ
の森」が発足。
・「悲しみを力に」
という観点が八雲
の生きざまと響き
あう

Mind of Lafcadio
Hearn in USA”―

「日米基層文
化の邂逅」を
開催

・2020年11
月、南アフリ
カ共和国プレ
トリア大学主
催でウェビナ
ーを開催。

“The Open Mind
of Lafcadio
Hearn-Light from
the East” (図3

図2

(2)記念事業“ The Open Mind of Lafcadio Hearn”の開催

八雲の「オープン・マインド」を社会に活かす目的で、以下のような記念事業が展開されてきました。

- ・造形美術展“The Open Mind of Lafcadio Hearn” アテネ（2009）、松江（2010）、ニューヨーク（2011）、ニューオーリンズ（2012）
- ・2014年7月、八雲の生誕地レフカダで“The Open

Mind of Lafcadio
Hearn”シンポジウム

（5か国9名のパ
ネリスト）

・2015年10月、ア
イルランドで“The
Open Mind of Lafcadio
Hearn-Coming Home”
を開催

- ・2019年10月、ア
メリカのニュー
ヨーク・シンシ
ナティ・ニュー
オーリンズで“ハ
ーン渡米150年記
念事業“The Open

参照)

これらの記念事業（美術展、講演、シンポジウム、朗読、写真展など）を通して、現代社会における「オープン・マインド」の必要性を参加者と共有してきました。

(3)施設のオープン

上記の記念事業“The Open Mind of Lafcadio Hearn”の開催の成果を反映して、以下のような施設が設立しています。

- ・2014年7月、ギリシャ・レフカダに「ラフカデ

**Webinar「ラフカディオ・ハーンのオープンマインド
―東からの光―」2020年11月28日**
(The Open Mind of Lafcadio Hearn-Light from the East-)
主催: 南アフリカ共和国プレトリア大学 共催: JICA 協力:
日本国大使館・小泉八雲記念館

導かれた方向性:「ハーンのオープン・マインドは東洋と西洋、人と人、生者と死者をつなぎます。自分の思っていることだけが真実で他は不要という思考が現代に顕著にみられる。しかしハーンの思考にある統合性は分断の対極にあり、現代社会にとっても必要」22か国、170人の参加

図3

イオ・ハーン・ヒストリカル・センター」がオープン。ヨーロッパ初の「ラフカディオ・ハーン・ミュージアム」です。

・2015年6月、アイルランド・トラモアに“Lafcadio Heam Japanese Gardens”がオープン。1ヘクタールの傾斜地に、八雲の人生を9つの庭で表現しています。ひとつひとつの庭に物語があり、庭を周遊すると八雲の異文化体験やオープン・マインドを理解することができます。

(4)松江の文化力を生かしたまちづくり条例（令和3年3月制定）の「めざすべきまちの姿 7つの柱」の制定

松江市は、2021年に制定した文化条例で、めざすべきまちの姿として、7つの柱を掲げました。その4つ目に「小泉八雲が五感で感じた松江の生活文化」を置き、八雲とその「オープン・マインド」のまなざしに注目し、まちづくりにもそれを活かす方向性を示唆しています。

なお、7つの柱とは以下のようなものです。

- ①古代から近代までの豊富な文化財
- ②地域に根付く伝統文化
- ③市民生活に根づく茶の湯文化
- ④小泉八雲が五感で感じた松江の生活文化

これは、自分だけの価値観で物事を解釈せず、多様性を尊重する心「オープン・マインド」により、さまざまな価値を認め合うまちをめざすもの

- ⑤市民とともに育む芸術活動
- ⑥伝統文化芸術活動の拠点となる施設
- ⑦宍道湖、堀川、中海等の松江的景観

2. 感染症から学ぶ

八雲はみずから感染症罹患を体験し、大流行も目の当たりにしたことから、感染症と社会の動きに強い関心を持ちました。このことは以下の記事や作品に示されています。

- ・「流行病の兆し」“Epidemic in Embryo”1873年（シンシナティ時代）シンシナティ・エンクワイア

ラー

- ・「目に見えない毒」“Invisible Poisons”1881年（ニューオーリンズ時代）デイリー・シティ・アイテム
- ・「黄熱病」“El Vómito”1881年（ニューオーリンズ時代）デイリー・シティ・アイテム
- ・「天然痘」“La Vérette”1888年（マルティニーク時代の体験）ハーパーズ・マンスリー
- ・「さようなら」“Sayōnara”1894年（松江時代の体験）『知られぬ日本の面影』下
- ・「コレラ流行期」“In Cholera-Time”1896年（神戸時代の体験）『心』

そして、上記作品で、家族や血縁を超えて救いの手を差し伸べ、底抜けのやさしさと勇気を発揮する人間の姿と行動を描きました。「さようなら」では、八雲が熊本転任を控えた1891年11月、松江にコレラが流行し、勤務先の島根県師範学校でもクラスターが発生した様子などを記しています。また、社会不安と妖怪、感染症との相関関係から、人間の力の限界、自然・異界への畏怖の念の大切さを学びました。

さらに八雲は一連の感染症体験から、手洗いとうがいこそ予防に最重要という認識を得ます。それは、コロナ禍の2021年に、八雲が滞在した富田旅館主と女将の口述筆記が小泉八雲記念館に寄贈され、そのなかの以下の記述が語っています。

「衛生ニハ余程心ヲ留メテ居ラレマシテ 外出シテ帰ラレタ時又ハ筆(ペン)ヲ把テ仕事ヲサレタ後ナド 必ラズ手ヲ洗ヒウガヒヲセヌト氣ガスマヌ 私方デモ二階ニ洗手場を新タニ造ツテ水甕ヲ備付ケマシタガ 此小水甕ハ八雲記念館に出シテ置キマシタ」(富田太平・妻ツネ誌「富田旅館ニ於ケル小泉八雲先生」)

平素から、帰宅時と執筆の後には、手洗いとうがいを欠かさず行っていたことがわかります。また、神戸時代のコレラ流行の体験を綴った文章には以下の記述があります。

「すぐに無届けの患者をさがしだして、担架と人夫をつれてやってくる。見ていると、ずいぶん残酷なようだが、しかし衛生法なんてものは、これはよろしく残酷なものでなければならぬ。」（平井呈一訳「コレラ流行期に」『心』）

以上から、八雲は比較的厳格な衛生観念の持ち主で、ウィルスからの最大の防御方法を心得ていることがわかります。こんな八雲の生活習慣や行動も近年のコロナ禍で再評価される一因となったのです。

3. SDGs と小泉八雲

八雲はこんにち言う SDGs の考え方をすでに持っていました。そのことが端的に示されているのは、1891 年の 1 月に熊本で行った講演「極東の将来」です。

「.....自然は過ちを犯さない。生き残る最適者は自然と最高に共存できて、わずかなものに満足できる者である。宇宙の法則とはこのようなものである。」（中島最吉訳、『ラフカディオ・ハーン再考—百年後の熊本から—』所収）

これは、人間が自然と共生することと、物欲に走らずシンプルライフで生きることの大切さを述べています。まさに持続可能な社会の実現に必要な生き方ではないでしょうか。

また、数々の自然災害を体験してきた日本人が、災害後にとる行動について「地震と国民性」（1894.10.27 付、神戸クロニクル紙）という記事の中で言及しています。

「定期的に起こるそれぞれの災害の後に見られる日本人の素晴らしい回復力、あるいは苦難に際しての見事な忍耐力をむしろ称賛すべきなのかもしれない。.....要するに、自然の不安定に人工的な不安定を対置させることにより、日本人は環境の厳しく荒々しい条件に対処してきた

ようである.....セメントを使っていない巨大な石垣の石は、地震の振動のたびにますます密になるだけで、さらに頑丈な正面を形作る。.....日本が信じられないほどの短期間に、西洋が提供できたすべてのものを受け入れ、消化し、利用できたのは、その社会の非常に変わりやすい性質によってである。そして、それを利用することによって日本は、定期的に国土を荒廃させる恐ろしい突然の災害から、より効果的に自己を守る手段をやがて見出すだろう。」

八雲は、自然に抗わず寄り添う、日本の自然が教えた「持続可能」に生きる術を評価しました。また、自然災害が多発する風土が、変化に対応できる国民性をつくったという当時としては斬新な風土論を展開したのです。

今夏、宍道湖・中海圏域の 10 組の親子に参加していただき、八雲から SDGs を考える実践を行いました。その趣旨は「小泉八雲のまなざしと SDGs の視点をヒントに、山陰各地での出会いや体験を通して、私たちが暮らす地域の未来を考え、自分は何ができるのかを考えよう」というものです。2024 年 2 月 17 日に安来市で開催される全国街道交流会議第 13 回全国大会で成果発表が行われることになっています。

4. 怪談の新しい表現

2024 年は八雲の代表作『怪談』出版から 120 年の節目を迎えます。それを前にして、近年、八雲が再話した怪談作品がクローズアップされ、さまざまな新しい表現によって発信されています。そのいくつかの事例を以下にご紹介します。

【翻訳】

・ハーンの怪談作品のアイランド語訳(2018)、カタロニア語訳(2018)の出版

・円城塔 直 訳『Kwaidan』（KADOKAWA）（2022）

「ダン・ノ・ウラの戦いの物語を—最も悲哀の深くだりであるから」（「ミミ・ナシ・ホーイチの物語」）

「オ・ジョチューは振り返り、そうして袖を下

ろすと手で顔を撫でてみせー」（「ムジナ」）」

八雲はすべての作品を英語で書いていますが、その中には多くの日本語が散りばめられています。欧米の読者からすれば、それは「意味不明」の言葉です。英語話者の立場で、それをすべてカタカナで表記するという作家・円城塔さんの試みです。

【朗読のしらべ】

松江出身の俳優・佐野史郎の朗読と、同じく松江出身のギタリスト・山本恭司の音楽で表現するパフォーマンス（総合芸術）です。またそれに先立ち、私が作品構成や八雲についての短いトークを行います。2007年以來、さまざまなテーマで、国内外で60回以上公演を続けています。それは、文学を社会にひらく新しい試みであり、松江の無形の文化資源だと認識しています。2019年は、八雲の渡米150年にあたることから、アメリカ3都市で、「小泉八雲朗読のしらべ Kwaidan」を開催しました。演劇ファンと音楽ファンと文学ファンの垣根を超えた交流は、この活動の成果だと考えられます。

【怪談をテーマとする企画展の開催】

・TENOKA MILANO 展示会「日本の幽霊と精霊たち」（2022.9～2023.4）（図4参照）

2022年から2023年にかけて、八雲とは直接ゆかりのない、イタリアのミラノで大規模な展示会が開催されたことには驚きました。1,100平米の会場に、十数個の部屋が設けられ、部屋ごとに「雪女」

「十六桜」「猫を描いた少年」「ろくろ首」「伊藤則資（のりすけ）」「河童」「浦島太郎」「夏の日の夢」「狐」「生霊」のような八雲作品のテーマが設定されています。この展示会は、八雲怪談の世界にインスパイアされたフランス人アーティストのベンジャミン・ラコンブ（1982～）のイラストをもとに、イタリア人のクリエイティブ・ディレクターとアメリカ人のグラフィック・デザイナーが展示を作成しました。各部屋での表現方法はアニメーション、プロジェクションマッピング、サウンド効果など。スケール感のある空間演出で、来場者を異空間に誘う没入型エンターテインメントです。入場料は16ユーロ（約2,300円）ですが、期間中9万5千人が来場し、大盛況となりました。来場者の多くがミラノ市民でした。私も、2022年11月に会場で5回のギャラリートークを行いました。各回に30名以上の参加者があり、熱心に耳を傾けてくれたことに感銘を受けました。

・アイルランド・日本交流美術展「怪談—ラフカディオ・ハーンとの邂逅」（小泉八雲記念館 2023.6.27～9.24）

アイルランド人アーティストのエド・ミリアーノ、スティーブン・ローラー、ケイト・マクドナーが中心となり「ブルー・ムーン・プロジェクト」を結成。その後、日本人も参加し、日愛40名のアーティストが3年がかりで展示会を実現させました。作品のテーマは、八雲の『怪談』で、表現方法は、版画または芸術写真です。趣旨はハー



図4

ンという人物や作品の魅力を、世界により広く認知してもらうことだと主催者は言います。

初回会場は松江市の小泉八雲記念館で、その後、焼津小泉八雲記念館へ巡回しています。2024年以降はアイルランドでも5会場へ巡回します。また関西万博のアイルランド館のメイン展示になることもすでに決まっています。

また、松江で2008年から行っている松江ゴーストツアー（夜、松江の怪談の舞台を、語り部の話を聴きながら巡る）はすでに6千人以上を集客し、松江の観光に貢献しています。

一連の「怪談の新しい表現」の隆盛から、「超自然の文学には一面の真理（Truth）があるので、未来の人々も関心を持ち続ける」（東大講義）と予言した八雲の言葉が思い出されます。ヨーロッパの人々もコロナ、紛争、戦争、分断といった現代社会の惨状を目の当たりにして、人間中心の考え方の限界や矛盾を感じていることが、日本のアニミズム的世界への関心につながっているのではないかという実感を覚えています。

おわりに：八雲がもとめたもの

八雲が好んだものと、嫌ったものを妻セツが『思い出の記』で回想していますのでご紹介します。

「好きなものは、西・夕やけ・遊泳・寂しい墓・虫・蓬莱・怪談・浦島太郎の話、マルティニーク・松江・日御碕・美保関・焼津。嫌いなものは、うそつき・弱いものいじめ・フロックコート・ワイシャツ・ニューヨーク」

物質文明のみを追求しても豊かな社会はつくれないという八雲の信条が浮上してきます。また八雲は、友人あての書簡で以下のように述べています。

「人生に生きる目的を与えてくれたのはゴーストです。.....彼らは私たちに生きる目的、自然を畏怖することを教えてくれました。.....ゴーストもエンジェルもデーモンも今はもういません。この世の中は電気と蒸気と数字の世界になってしまいました。それは味気なく、空しいことです。」（1893.12.13 付 チェンバレン宛書簡）

八雲が怪談を大切にしたいわけが納得できる一文です。「この世は人間世界だけで完結できていない」「人間の欲望を満たすために未来はある」といった思い上がりや誤解への警鐘ともとれます。八雲は生涯、オープン・マインドでゴーストとかかわりながら、人間の限界と自然を畏怖する心の大切さを認識し、文学や教育を通して発信してきた作家です。繰り返しますが、八雲の信念は持続可能な未来のために、現代世界が重視するSDGsの精神とも響きあっています。

このように、作家や文学はけっして「終わったコンテンツ」ではなく、現代社会に活かすべき文化資源です。読者の鑑賞対象、研究者の研究対象、コアなファンの顕彰対象を超えて、広く現代社会へ貢献すべきだと考えています。

★2023(令和5)年度 松江北高校十大ニュース★

(注) この記事は北高教頭・双松会事務局長の石飛 憲先生に特別制作のご協力をいただきました。

▼R5年3月卒業生の進路

国公立大学に193名(既卒者を含む)が合格しました。難関10大学の合格者は20名でした。また、医学部医学科13名合格は昨年度の6名から倍増。高校生活の前半は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた学年でしたが、しっかりと結果を残してくれました。(詳細は北高HP>進路指導>進路状況からご覧になれます)

▼紅陵祭 「爆(はぜる)〜Who will explode it?〜」

9月には恒例の紅陵祭(学園祭)がありました。今年は4年ぶりにコロナ禍の影響を受けない通常開催をすることができました。1年生の合唱コンクール、2年生のルーム出し物等、それぞれがレベルの高いパフォーマンスを繰り広げました。特に3年生のページェントは、各ルームがそれぞれ関心を持った社会問題をテーマに、工夫を凝らしたりユーモアを交えたりして演じ、観客を魅了しました。



▼学校内の様々な場面でICT活用進む

生徒が入学時から一人が1台ずつICT端末を持ち、様々な場面で活用するようになって2年目になりました。授業中や家庭学習で活用が進んでいます。連絡事項もICT端末を活用して行い、生徒への連絡用サイト「校内掲示板」も運用を始めました。教員も研修をして活用の推進を図っています。



▼学習成果発表会をくにびきメッセで開催

12月にくにびきメッセで開催した学習成果発表会で普通科・理数科の課題研究の成果を発表しました。2年生普通科は、グループ探究から個人探究に変更し、一人ひとりの興味関心に基づいて学問的な探究を行いました。そのねらいは、教科の学習や大学での学びにつなげるためです。個人探究初年度でしたが、生徒はしっかりと成果を上げ、3月には鹿児島で行われる課題研究の全国発表会「高校生国際シンポジウム」に大会事務局による選考を突破し出場できることになりました。理数科は、課題研究の発表に加え、大学生との交流によるサイエンス・ステーション、小学生を対象とした理科教室キッズ・サイエンスも開催しました。



▼合唱部 全日本合唱コンクール全国大会 2年出場

10月に香川県で行われた全日本合唱コンクール全国大会に、合唱部が2年連続の出場を果たしました。全国大会の予選となる中国合唱コンクールにおいて、今年度は高等学校部門Aグループ金賞(第1位)・特別賞「山口県教育長賞」を受賞という快挙による出場権獲得でした。全国大会では銅賞という結果に終わりましたが、大舞台で見事な演奏を披露しました。



▼各種コンテスト・コンクールで大活躍

今年度は部活動単位での参加でない各種コンクールで華々しい活躍がありました。

○全日本学生音楽コンクール全国大会 声楽部門 高校の部 第1位 3年 門脇早紀さん

※高校の部での全国1位は島根県で初めての快挙でした。

○全国学芸サイエンスコンクール 読書感想文 特別賞金賞 2年 片岡瑞彩さん

○国際理解・国際協力のための高校生的主張コンクール 出場

○全国国際教育研究大会 高校生英語弁論大会 出場

○科学の甲子園 県大会1位 全国大会 3年連続出場

○エコノミクス甲子園 県予選突破 全国大会出場

○しまね未来共創チャレンジ「みらチャレAWARD」を受賞



▼文化部 令和6年度全国総合文化祭出場権を続々獲得

文化部がめざましい活躍をしています。以下の部が今年の夏に岐阜県で行われる全国総文祭の参加を決めています。

箏曲部、書道部、放送部、美術部、写真部、

自然科学部、百人一首かるた部



▼運動部 令和5年度全国高等学校総合体育大会での活躍

○自転車競技 4Km 速度競走 準優勝 3年 寺本将輝さん

○ボート部 女子舵手つきクォドプル準々決勝進出

※ボート部は3月下旬開催の全国選抜大会にも出場します。

○登山部 男子22位女子29位



▼TBSドラマ「VIVANT」監督 福澤克雄監督 講演会開催

12月6日(水)に、双松会の皆様のご尽力により大ヒットドラマ「VIVANT」の福澤克雄監督の講演会を開催することができました。有名ドラマ監督の来校に生徒たちは大いに興奮。講演の中では生徒との対話もあり大いに盛り上がりました。福澤監督の言葉から、生徒たちは「自分で自分の可能性の限界を決めることなく挑戦すること」の大切さを学びました。



▼起雲館の老朽化 雨漏り再び

1月3日(水)校舎に隣接する起雲館(卒業生会館)に大量の雨漏りが発生しました。昨年度も雨漏りがあり修繕を行いました。今回は屋上の防水シートが劣化により破損したことが原因でした。4階には大量の漏水があり、1階まで雨水が達するほどでした。屋上の防水シートの張り替え、電気系統の修繕が必要となり、3学期の間、補習科生は本校の教室での生活、いくつかの部は活動場所の変更、食堂は休業を余儀なくされました。今後も老朽化が進む起雲館の改修が必要です。

■2023 (令和5) 年度 諸行事報告

詳細とカラフルな写真はぜひホームページでご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

第12回 落語鑑賞会

日時／令和5年4月16日(土) 13時～16時半
会場／天満天神繁盛亭
担当／松本幸子常任幹事(23)

新型コロナ禍のため平成31(2019)年3月以来開催を見送ってききましたので、今回は4年ぶりの開催となり、新しく23期の松本幸子常任幹事にご担当いただきました。熱心な参加者募集の結果、過去最多の37名の参加となりました。

丁度、林家菊丸師匠の「文化庁芸術祭大賞受賞記念ウィーク」の千秋楽ということもあって、大入り満員札止めの盛況になり、当人に加え、笑福亭由瓶、笑福亭松喬、内海英華、桂よね吉の5人の師匠の「口上」も聞けるという付録もありました。おおいに笑い、関西の落語界の層の厚さをあらためて感じた楽しい一日となりました。

◆参加者は下記の37名(敬称略)

田村稔久(6) 廣政淑彦(7) 押田良樹・湯川好満&ご友人・田村廸子(11) 安部 正毅&ご家族(13) 加藤巡一&ご家族・小泉勝是・三好洋二&ご家族(14) 佐々木康雄・松本耕司&ご家族・森藤哲章(16) 柏木薫(17) 佐野和子&ご友人・三好資子&ご家族(20) 朝比奈 博則・近藤文雄・後藤和彦・松本潤・小松久美子・西村充子・松本幸子・山口紀子(23) 宍道弘志&ご家族・中倉行彦(31) 木村恵吉・竹谷奨&ご友人・田中裕子(近畿松江会)



第16回 文楽鑑賞会

日時／令和5年7月23日(日)
会場／国立文楽劇場
担当／宍道弘志事務局長(31)
演目／「妹背山婦女庭訓」四段目

妹背山婦女庭訓(いせやまおんなていくん)は、1771(明和8)年1月に大坂竹本座にて初演された人形浄瑠璃と歌舞伎の大演目の一つです。

10年前に同じ四段目の「井戸替の段」、「杉酒屋の段」、「道行恋苧環」、「鱧七使者の段」、「姫戻りの段」、「金殿の段」を鑑賞していますが、今回は「入鹿誅伐の段」が加わり、1時半から4時間に及ぶ長丁場になりました。しかし、物語仕立てはさすがでひき込まれるように最後まで見入りました。

物語は、大化の改新の時代に藤原鎌足が蘇我入鹿を討つという結論の中で、杉酒屋の娘お三輪の犠牲が必要になるのですが、これこそ、文楽の真骨頂と知りつつも、もっと女性にやさしくと、もう少し何とかならんのかと、またまた涙を絞ってしまいました。

◆参加者は下記の25名(敬称略)

田村稔久・石原綏子&ご友人(6) 押田良樹・田村廸子(11) 加藤巡一&ご家族・小泉勝是(14) 松本耕司・森藤哲章(16) 佐野和子・山崎麻里子(20) 大浦綾子&ご友人・鶴羽孝子(22) 小松久美子・西村充子・山口紀子(23) 小林宏・京子(25) 宍道弘志&ご家族(31) 橋本充男&ご家族・松岡茂(ゲスト)



第2回 “新” 「ハイキング」

日時／令和5年10月22日（日）

コース／比叡山坂本～石積みのある門前町～

担当・報告／山口紀子副会長（23）

写真／押田良樹常任顧問（11）

当日はすばらしいハイキング日和になり、10時30分、坂本観光案内所に22名集合。

まずは滋賀院門跡へ。



滋賀院の近くはこのような穴太積の石垣が並ぶ

長い穴太（あのを）積み石垣のその上に最高の寺院の格を表すという5本の横線が入った土塀が見えました。展示物もそれにふさわしい物でした。



延暦寺根本中堂の「不滅の灯明」と同じ灯明

次は日吉大社へ。全国3800余の日吉・日枝・山王神社の総本宮で、都の表鬼門（北東）として魔除・災難除を祈る社として崇敬を受けています。ここでは魔よけの象徴として神猿（まさる）と呼ばれる猿が祀られ大切にされています。



日吉大佐の山王鳥居：。普通の明神鳥居の上部に三角形の破風（屋根）が乗る神仏習合の独特の形。「合掌鳥居」とも呼ばれる。

昼食後は、最後の目的地「西教寺」へ。

聖徳太子により創建されたと伝えられ、正式には天台真盛宗本山戒光山兼法勝西教寺というそうです。織田信長の比叡山焼き討ちで焼失した後、明智光秀が復興に尽力したことから境内には光秀の妻や一族の墓所があります。



西教寺総門の前で記念撮影

帰りは集合地へ向かっての一気に下り坂、15時30分、無事解散しました。



西教寺から望む琵琶湖。対岸の山は三上山（近江富士）

今回は9期先輩が4名参加され、解散後ミニ同窓会をされたとか、そのお元気さに感服し見習いたいと思いました。参加者からは、先輩たちとお話ができて嬉しかった、との感想をいただき嬉しく思いました。

来年も、そして、まだハイキングにご参加でない皆さまとも是非一緒にいたしましょう。（山口）

◆参加者は下記の22名（敬称略）

坂本隆男・田中英明・中井孝・佐々木悦子（9）押田良樹・田中 一男（11）宮原琢郎・三島幸子（14）梅本隆志・森藤 哲章&ご夫人（16）佐野和子・三好資子&ご主人（20）小松久美子・橘千里・西村充子・松本幸子・山口紀子・葭田久美子（23）宍道弘志&ご夫人（31）

■ 同期会だより

22(理1)期(S46年卒)関西同窓会

2024年3月9日(土)肥後橋の「徐園」において、長らく見合わせていた関西同窓会をようやく開催することができました。

コロナ禍の間も、少人数の食事会や作品展鑑賞などで交流を続けていましたが、皆が一堂に会するのは5年ぶりとなりました。これまでに参加した顔ぶれに加え、2人の初参加が何より喜ばしく、また、愛知県から来阪した人やUターンした松江から足を運んだ人もあり、総勢17名が集いました。

幹事の挨拶、初参加者の挨拶のあと乾杯し、和気あいあいに話がはずみました。高校時代の懐かしい写真や寄せ書きを持参した人もあり、趣味を披露する人もあり、参加が少なななかった友人の病状報告もありました。

最後に、これからも皆が健康で顔を合わせられるよう、一本締めて締めくくりました。(鶴羽孝子)

○参加者は次の17名(敬称略)

石川章・石橋善和・井上正夫・岩田邦雄・大浦綾子・太田朗夫・木山洋子(平田)・実重佑二・鶴羽孝子(石橋)・寺本和義(愛知県)・内藤清志・永瀬光一郎・西村紀子(松本)・松下和子(川見)・村田貢・吉岡裕美子(清田)・吉賀浩一郎



◆松江北高 S46 年卒関西同窓会ホームページ

<https://tsuruha.sakura.ne.jp/kitako>



23(理2)期(S47年卒)同期会

私たち23期の関西地区同窓会は30年前に発足し毎年開催してきました。コロナ期も毎月のリモート開催で乗り切り、最近では近畿双松会の総会また落語会に合わせてミニ同窓会も行い、益々絆が強くなりました。

最近の最大のイベントは、今年3月10日、11日に、開催した美保関ツアーです。関西中心に東京、広島、山口、福岡、島根から総勢32名が福岡館(同期の福岡隆君の旅館)に集結。懇親会では、海の幸と地酒と談笑を満喫した後、同期の寺本義雄くんのカントリーバンドによる素晴らしいライブコンサートを堪能しました。

翌日は美保神社参拝で身を浄め、佛谷寺、青石畳み、美保関灯台見学、クルージングと観光フルコース。美保湾から臨む大山の優しい姿に、一同、心を洗われ、仲間から故郷から新しいエネルギーをいただきました。

「夢のような、感動の古希修学旅行」でした。

(松本 潤)



26(理5)期(S50年卒)近畿地区同期会

2023. 6. 11 13:30～ ホテルグランヴィア大阪
フレンチレストラン「フルーヴ」個室にて26期の近畿地区同期会を開催しました。

(初参加)2名、(ちょこちょこ参加)4名、(最近よく参加)1名、(常連参加)8名により15名で盛大に開催しました。

コロナ禍から少しずつ日常を取り戻しつつある中、年齢的にも仕事、家庭が落ち着き、皆昔を懐かしく、人恋しい思いが募ったのか、今までで最高記録の参加者となりました。参加者の中には同期で結婚の方もおり、今回はパートナーが他の予定(ゴルフ)で不参加でしたが、次回は是非参加したいといううれしいお言葉も聞いています。これからこの輪が広がることを楽しみにしています。(松村 聡)



27(理6)期(S51年卒)近畿地区同期会

昨年、11月4日土曜日、5年ぶりに、北高27期(昭和51年卒業)の同窓会をしました。場所は梅田ヒルトンプラザウエストの虎連坊という、ちょっとハイカラな居酒屋で、正午0時から3時まで、飲み放題で。参加者は8名 三浦清君、三原均君、北野善将君、吉田勸君、木田京子さん、高濱賢二君、新宮富美子さん、野口博也という顔ぶれです。

まずは祝杯をあげ、少しのどがしめったところで、近況報告から始まりました。みんなの話が面白くてあっという間に時間が過ぎて行きました。46年ぶりに会ったメンバーもいたのですが、そんな時間の隔たりも、話していくうちに、だんだん狭まってきたような気がしました。北高の、松江のことを思い出した、楽しく濃い時間を過ごすことができました。

話に夢中になってしまい、写真を撮るのも忘れていました。(その為、写真の掲載はありません。)そして、12月10日近畿双松会にも8人全員が参加し、再び旧交を温めることができました。(野口博也)

31(理10)期(S55年卒)松江北高@関西

2024年2月24日、花殿 ka-den 梅田茶屋町にて、同期会を開催しました。2017年から毎年、安井さんが幹事となって開催し、今回で6回目となりました。(2021、2022はコロナ禍のため休止)出席者(敬称略)は、井川恵里(森口)、池田洋子(赤木)、岡田ちはる(三田)、清原 学、小林 満、宍道弘志、中倉行彦、安井裕彦の8名でした。(宍道弘志)



36(理15)期(S60年卒)同期会

日時 2024年2月10日

場所 つかさ(高槻)

昨年の近畿双松会がきっかけとなり36期(昭和60年卒)の同期会を開催しました。住まいが京都から大阪に分散しているため中間地点の阪急高槻市駅近くのお店を選びました。松江市在住でたまたま大阪に来ていた松本さんも飛び入り参加。昔話に花が咲き、勢いでカラオケスナックにも行き、昭和の歌しばりで大盛り上がりとなりました。ありがとうございました。

(今宮一正)

写真左から 相見(柴田)さん 松本(川中)さん、平井(杉本)さん 今宮、森口さん、高野さん



■近況報告・自己紹介・所感集

※下記の二つの短信から、抜粋し、ご紹介します。4ヶ月前後の時差がありますこと、ご承知おきください。(掲載は卒業期順)

- ① 2023年12月10日、設立65周年記念総会の出欠ご返事お葉書で、「近況報告」としていただいた短信。
 - ② 総会終了後、2024年2月末日までにいただいた「自己紹介や所感」などの短信。
- ※「テーマ」投稿は別掲します。

松江(北高・双松会)の皆さんから

松江北高校 校長 木原 和典(浜田高校卒)

お世話になっております。私も今年度で役職定年となりますので最後になりますが、よろしくお願いします。

双松会 幹事長

高31(昭55卒)景山 直観(松江市)

55歳で再婚、6歳の女の子の父。ほか、32歳女、30歳女、28歳男の父でもあります。

駅弁、学校給食の「一文字屋」の社長をやってます。

双松会 副幹事長

高35(昭59卒)石原俊太郎(出雲市)

一文字屋の景山先輩(31期)に誘われて、双松会副幹事長を仰せつかりました。

150周年に向けてご支援、よろしくお願いいたします。

近畿の皆さんから

中68(昭23卒)荒銀 昌治(西宮市)

聴力の低下が著しく、体の各部も老化が進んでいますが、近所のジムで筋トレを続けながら、一応元気に過ごしています。

ただ、一人での長時間での外出は控えていますので、総会には残念ながら欠席します。ご盛会をお祈りいたします。

高2(昭26卒)堀江 眞三人(西宮市)

「久しぶりに松江に行こう」

今年(2024)は92歳になります。

桜の花の咲く頃、久しぶりに松江に行こうと思ひ立

ちました。必ず実現したい事です。

そのためには体調を今から整え、詳しく行動予定を立てて、その日の夜には帰って来たいと考えています。これぐらいの体力はまだ残っている確信があります。(傘を忘れないで)

高5(昭29卒)板垣 衛武(西宮市)

長年ご縁があり、私が作品を発表してきた神戸の同人誌「文藝かうべ」が、編集長の大病の治療のため休刊されることになりました。小生は身体と頭をだましな



がら拙作を書いていた状態でしたので、即賛同しました。

最後の作品「長崎の唐人屋敷物語」(著者:板垣衛武)が本になりましたのでご笑覧ください。

発行所:(株)22世紀アート、660円+税、03-5941-9774、

Email: info@22art.net

今年は思いがけず阪神タイガースが優勝し、日本一にまで登りつめたり、海外では大谷選手が大活躍するなど、楽しい思い出一杯で、幸せでした。

ウクライナやガザ、パレスチナのことを思えば、日本は天国です。しかし、台湾の危機も迫っているようですし、国防のことは国民全体でよく考えないといけませんね。

高5(昭29卒)寺本 尚由(尼崎市)

まことに残念ですが、今回は欠席とさせていただきます。元気で頑張っています。

高6(昭30卒)原 卓司(高槻市)

老化が進み、活動意欲減退す。

高6(昭30卒)森岡 敏眞(明石市)

コロナ禍で閉塞気味だった各地での行事がやっと復活し、賑わっていますね。近畿双松会の総会が盛大に開かれ、嬉しく思っています。役員の方々の努力に感激です。

高6(昭30卒)荒木 夕子(大阪市生野区)

87歳になりました。遠方への外出が少なくなりました。

高 7(昭 31 卒)廣政 淑彦(吹田市)

いつ体調が急変してもおかしくない年齢となりましたので、今回は最終とさせていただきます。

高 9(昭 33 卒)田中 英明(交野市)

10 月 22 日の“新”ハイキング「比叡山、坂本」方面に 9 期生 4 名で参加、最年長者でした。解散後、大津プリンスホテル 37 階でミニ同期会、楽しい時間を過ごしました。

普段は、家庭菜園、植物観察ハイキング、月一ゴルフなどで過ごしています。

高 9(昭 33 卒)伴 稔也(橿原市)

最近、同窓会の最終連絡や、旧友の訃報が多くなってきました。さて、どうするか・・・「善人なおもて往生す、いわんや悪人をや」について思索中。

高 10(昭 34 卒)面白 紘(橿原市)

約 3 ヶ月入院し、10 月、退院しました。体調が回復していませんので、今回は欠席させていただきます。すみません。

高 10(昭 34 卒)佐和田 丸(枚方市)

今年は、辰年、7 回目の年男を迎えました。「うま」殿から文句が出そうですが、いたずらに馬齢を重ねて来た感があり、内心忸怩たるものがあります。

昨年は、関西医大病院の ICU に入るハメになり、生死の境をさまよってきました。先端医療、神仏、飯南町大しめ縄等のご加護により、何とか意識を取り戻し、生還することが出来ました。お世話になったすべての方々に感謝、だんだんです。

他方、今年の正月には、3 人の子、6 人の孫が集まり、金婚のお祝いをしてくれる嬉しいこともありました。新年に相応しいお祝いの写真と思われ、ご笑覧いただければ幸甚です。



高 10(昭 34 卒)清水 義男(大阪狭山市)

幸い、元気でやっています。盛会をお祈り致します。

高 10(昭 34 卒)清水 小枝子(大阪狭山市)

熟年大学を受講したり、ヨガやハイキングをしたり、身体を動かせる幸せを感じながら暮らしています。

中央電気倶楽部の会場を思い浮かべながら、ご盛会をお祈りしています。

高 11(昭 35 卒)押田 良樹(吹田市)

(1)1 月の宝塚、4 月の落語、7 月の文楽、10 月のハイキングと、会のリレーション行事にすべて参加することができ、同好の士と楽しい時間を共有することができた。

12 月の総会でも出席の皆さんと親しく歓談することができた。近畿双松会は私の心のオアシス、これからも体が許す限り、安らぎの場所として参加していきたいと思っている。

(2)あの、弱かったわがオリックスは、中嶋監督のもと 2021 年からパリーグ 3 連覇を果たした。夢のような出来事だ。昨シーズンは元の職場の先輩と 4 回京セラドームに足を運んだ。3 勝 1 敗だったが、1 敗は先発予定の山本由伸が体調不良のため急遽取り消しとなったためだった。初めて生で山本の雄姿を見るのを楽しみにしていたが残念だった。今年は大谷と同じドジャースで投打の主役となる活躍を期待している。

オリックスは 59 年振りとなった関西対決の日本シリーズでは阪神に勝ちを譲った。関西経済の盛り上げのためにはそれでよかったと思う。松本前会長の病氣回復への後押しになったことだし。

(3)健康維持のために日課にしているウォーキング、1999 年から記録を残しているが、もう四半世紀になる。最初の頃は目標を 1 日 1 万歩に設定したが、80 歳を過ぎるとさすがにそうもいけなくなり、7000 歩に下げた。

結果、昨年は 7230 歩で目標を達成した。以前と同じコースを歩いて歩数がかかなり増えているのに気づいた。即ち歩幅が狭くなっているからに他ならない。しかし、それなりに運動にはなっているのだから割り引く必要もないだろうと思っている。

高 11(昭 35 卒)野津 丞(富田林市)

病氣療養中です。ご連絡、有難うございます。

高 11(昭 35 卒)中川 陽子(大東市)

腰椎のスベリ症のため、摺り足で杖をついての生活

です。この猛暑の 7、8 月はすこぶる元気で出歩いていたのですが・・。

リハビリに毎日通院しています。待合室で隣りのおばあさん(92 歳)曰く、「70、80 の頃は色々いたい所がありました、90 超えたらどこもいたいとありません」と励まされました。

高 12(昭 36 卒)萩野 貫悟(神戸市東灘区)

難聴がひどくなり、白内障もよくない状況ですので、今回が出席最後となるかもしれません。

高 12(昭 36 卒)加納 征男(大和郡山市)

熱中症にて1ヶ月入院。10 月に入り、少し涼しくなったが、体力回復に程遠し!!(歳かぬ??)

高 12(昭 36 卒)福間 昭光(茨木市)

80 年と 8 ヶ月。まずまず健康で過ごし、連れ合いや息子達に感謝の日々です。

高 13(昭 37 卒)山下 俱子(明石市)

昨年(2022)11 月に夫が亡くなり、一周忌を終えたところです。コロナや夫の病気で、近畿双松会への出席は 5 年ぶりです。

高 14(昭 38 卒)木幡 晃正(丹波篠山市)

二人に一人が、がんになる時代ですが、がんのお話です。

がん宣告は、本人家族に大ショックです。私の場合、2022 年 7 月ですが 1. 食事中に食べ物が飲み込めない 2. しゃっくりが止まらない 3. 透明で粘り気のある液がのどに出てくる 4. のどに違和感がある・・等の症状が、がんアラーム情報でした。

『胃カメラ飲みますか?』『はい飲みます!』・・・この行為が大事です! 行動無ければ結果無し! がんは、早期検査・発見、早期治療が肝要ですから。

転移してからでは、治療が大変です。心当たりがあれば、必ず専門医に相談受診して下さい。毎年、定期診断受診をお勧めします。今は、治療法が進んでおり、がんは治る病になりましたから。

2022 年 9 月 25 日神戸大附属病院へ入院、27 日朝 9 時～24 時の 15 時間ダビンチロボット手術で、先生達も大変でした。私は、死亡有りを覚悟して臨みました。首、腹部切り裂き、ロボット作業の穴あけ加工、右肺をしぼませて、手術空間を作り、食道切り取り、胃上部半分を食道に加工、喉に接続等が手術内容。

2022 年 10 月退院後、自宅療法。毎日、身体に管から栄養剤注入 5 時間。2024 年 1 月現在、まだ体重が 10kg 程、回復してないので、筋肉、脂肪の不足からか疲れやすく、気温の変化には敏感です。

食事は、まだ、ご飯、ステーキ、蛸、イカ等、固いものはダメですが、奥さんのお陰で、かなりの物が食べられています。痩せたためか水温が冷たく感知され、今は心臓に悪いのでプールはやめました。たまたまいタイピングで絵画教室に入会し、何とかの手習いしながら、疲れないように暮らしております。

3 ヶ月毎に通院検査がまだまだ続きますが、自作の絵数点、ご笑覧頂ければ幸いです!



篠山河原町通り (国指定の歴史建造物群)



篠山高蔵寺の晩秋紅葉

大病をして分かった事は妻子・孫、友人達からの深い愛情が認知された事! 人間は生きていだけで、その存在価値がある事! 地球の空気が美味しい事!

高 14(昭 38 卒)三好 洋二(豊中市)

昭和 20 年生まれは、戦後何年経ったか、すぐ分る。ちなみに今年は 78 年目です。

昨年 9 月に 20 年ぶりに引っ越しをしましたが、今年(2023 年)の暮れに、また、引っ越しをします。しかし、これを最後にしたいと思う今日この頃です。

高 15(昭 39 卒)佐藤 修介(西宮市)

松江にはよく帰っております。双松の同窓がよくなく

なり、さみしくなります。清水、福田、内藤と。

高 16(昭 40 卒)梅木 隆志(大阪市鶴見区)

小学校卒業から 65 年、現在 77 歳の同期会を 10 月に開催しました。出席者は男 5 名、女 5 名の 10 名。

高 16(昭 40 卒)神田 俊之(大阪市東住吉区)

しつこく弁護士を続けております。

高 16(昭 40 卒)長谷川 賢治(大津市)

なんとか暮らしています。

高 16(昭 40 卒)松本 耕司(枚方市)

夏の終わりに、ドック健診であのややこしいと言われるすい臓にガンが見つかった時は、さすがに頭が真っ白になった。幸い早期発見で切除は可能だったが。

しかし、血糖をコントロールするすい臓の自律機能をほぼ失うことにもなり、今は、三食ごとにインスリンを自分で注射し、糖尿病にならないよう防衛に努めている。

お酒も控え、食事也喜欢に食べられないとなると、何を楽しみに生きていこうかと思ったが、あった！ タイガースの“アレンバ”が……。こうなったら五連覇でも十連覇でもして、我が晩年を彩って欲しいと切望している。“頼んまっせ！岡田はん！”

高 16(昭 40 卒)三吉 孜(川西市)

年相応に病気が出たり、経年劣化で家、家電製品などの故障が増えましたが、年数回の写真展出演を励みに暮らしています。

高 16(昭 40 卒)森藤 哲章(樫原市)

「お医者様 パソコン見ずに オレを診て」と言う笑い話があるようです。10 年ほど前に患者を連れて大病院に行くと、医者がパソコンに向かって記事を記載していました。横から画面を見ていると途中で同じようなことを書き直していました。途中で書き直すということを何回も見たため「この Dr は遊んでいるのかな？」と思ったりしていました。

私も 2 年程前から電子カルテを本格的に使用するようになりました。大文字が小文字になったり、日本語入力が英字入力になったり、同義語変換になったり、指が隣のキーに触れたため意図しない文字が書かれていたり等々と書き直しが必要なが多くあります。ピアノの奏者の様に上手になってキーボードを見な

くても打ち込めないものか？ その上、レントゲン写真等を見ようとすると、パソコンの反応が遅い等のトラブルで患者さんを長らく待たせ、迷惑をかけるのでイライラすることが多々発生します。医療秘書のシステムもあり、診察の隣りで補助してくれますので助かっています。

パソコン画面を見るためか最近視力低下を実感しています。運転免許更新には視力検査もあります。健康には気をつけて頑張っていこうと思っています。

高 17(昭 41 卒)岡 久夫(神戸市西区)

松江北高17期同期の皆様へ

長らくご無沙汰しておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年 12 月に開催された近畿双松会総会に、17 期では岩本眞左子(旧姓 万波)さん、小脇光男さんと私の 3 名が出席しました。小泉八雲のご曾孫の小泉凡さんの講演、65 周年記念の福引もあり、楽しく過ごす事が出来ました。近畿双松会のホームページを見ていただくと写真も載っています。

近畿双松会もさることながら、コロナで 17 期関西同期会を開催しておらず、幹事として誠に申し訳なく思っております。17 期全体の同窓会が本年 6 月 1 日(土) 18 時から松江(サンラポーむらくも)で開催されます。(別途、松江幹事から案内状が送付されます)ご都合がつく方々には是非ともご参加をお願いいたします。

元気なうちにお会いして、旧交を温める良い機会かと思っておりますので、交友ある方にお声がけして頂ければ幸いです。

高 17(昭 41 卒)永井 貞泰(長岡京市)

金婚式を迎えて、子供一家や孫達と旅行することになっており、残念ながら欠席です。ご盛会をお祈りします。

高 19(昭 43 卒)池田 喜美代(門真市)

学生時代に学割周遊券を使い訪ねた北海道……、以後、ツアーでの北海道行きでも訪ねることができなかった「オンネトー」に、今年 6 月、50 年を経て訪ねました。良かったです。

高 20(昭 44 卒)安井 文子(箕面市)

地域の人達と、歌ったり、体操をしたりして楽しくやっています。

高 20(昭 44 卒)山崎 麻里子(大東市)

若い友人が 2 人できた。

1 人は 40 代半ばの H さん。昨年、大東市の英会話サークルに入会したときに、代表の H さんと知り合った。親子ほど歳が違うのに気が合い、我が家で飲んだり、一緒に出掛けたりしている。流暢に英語を話す彼女は私の目標だ。

もう 1 人はアメリカ人の K さん。40 代か 50 代。昨年、以前から通っている大阪市内の英会話サークルの新しい講師になり、大東市の英会話サークルの講師にもなった。明るくて気さくで情にあつい。H さんと共に個人的な付き合いをするようになった。

この歳になって、こんな若い友人ができるとは思ってもしなかった。私の拙い英語が今年はマシになるかも。

高 21(昭 45 卒)花田 幸久(名古屋市)

9 月 25 日(月)、松江「サンラポーむらくも」で、21 期の“古希”同窓会に出席しました。コロナ禍で 3 年延期。72 名の参加で盛り上がりました。

高 22(昭 46 卒)石川 章(神戸市垂水区)

変わりなく、老後生活中です。

高 22(昭 46 卒)岩田 邦雄(枚方市)

案内状のほかに 2 度までメールをいただき、有難うございます。何とか参加させていただきたいと予定を調整してみましたが、如何ともし難く、失礼させていただきます。次回は何かと思っております。

高 22(昭 46 卒)内藤 清志(大阪市東淀川区)

盛会をお祈り申し上げます。

2021 年 3 月末で定年退職し、年金生活者となりました。時々、日本百名山を登って体力維持に努めています。現在、22 座に登頂。

高 22(昭 46 卒)松本 貴文(枚方市)

現在、枚方市立氷室小学校で学校施設管理人として勤務、(六年目になります。)

高 22・理 1(昭 46 卒)佐伯敬二(生駒市)

子供二人(娘)は各々家庭を持ち、妻と二人で生駒市で暮らしています。今夏の盆には孫 5 人が我が家に集合してくれました。

高 22(昭 46 卒)鶴羽 孝子(尼崎市)

10 月中旬に、娘二人と「神在月」の出雲、松江へ観光に行きました。出雲大社をはじめ、名だたる神社を

巡り、パワーを授かりました。稲佐の浜「出雲湾クルージング」は圧巻でした。

「小泉八雲記念館」も訪れ、小泉凡先生はご不在でしたが、スタッフの方に、ご講演を楽しみにしているとお話ししたので、お伝えいただいたと思います。

高 22(昭 46 卒)西村 紀子(豊中市)

卒業してから月日の経過と共に、松江を一層懐かしく思います。コロナも落ち着き、今年の夏は旅に出かけました。日本の良さを感じました。

高 23(昭 47 卒)松本 幸子(大阪市都島区)

みやこん合唱団で歌い踊っていますが、8 月 17 日から声が全く出なくなり、病院通い。声帯結節の診断。今も、喉を休めています。

高 23(昭 47 卒)渡辺 都(京都市中京区)

京都中京に住まって 40 年以上となりました。新潮社より出版しました「お茶の味」が文庫本になりました・・・(コロナ禍中に)。よかったら手にとってやって下さいませ！

高 24(昭 48 卒)伊藤 澄夫(神戸市中央区)

今回、幹事を拝命いたしました伊藤澄夫です。もうじき 70 歳(古希)になります。

私は松江出身ではなく父の転勤に伴い横浜より転居し、3 年次の一年間だけ在籍しました。クラスは 2 ルームでバスケット部に所属していました。

現在は神戸在住で食品関連企業の顧問や大学での講師をさせていただいております。また、中学から始めて現在まで(約 55 年)続いているのがバスケットで、年齢別クラブチームや、小学生と一緒にミニバスケットで汗をかいています。

60 歳が近づいた頃から、還暦同窓会などで松江に行く機会が増え、同級の竹中さんから食事会の案内などをいただく中で、近畿双松会のことも知り、参加するようになりました。

松江出身でないためあまり知った方がいなかったのですが、何度か参加するうちに仲良くしていただく方も増え楽しく参加しています。

今まで参加したことがない方も参加してみてもいいかがですか。

高 24(昭 48 卒)徳田 完二(京都市北区)

「近況」と言うには少し時間が過ぎたが、昨年末、全

国高校駅伝が都大路で行われた。わたしの家はそのコースのすぐ近くにあるので、大分東明高校女子の第一走者を第一中継所で動画に撮った。なぜなら、走者の奥本菜瑠海選手がわたしと同じ隠岐出身だからである。

彼女は区間賞獲得という快挙を成し遂げた。動画はさっそく中学同級生の LINE にアップし、盛り上がった。奥本選手は隠岐にいた中学時代に独学で陸上に励み、中 3 の時、ある競技会で県一位になったことからスポーツ推薦で他県の高校に進学したと聞く。

彼女は 1 月 14 日の都道府県対抗女子駅伝でも一区で出場した(高校駅伝の時よりタイムも順序も落としたのは残念だったが)。相撲界では隠岐の海が引退し、隠岐出身者としては寂しく思っていたが、新星アスリートに元気づけられている。

高 24(昭 48 卒)小川ひとみ(河西市)

今年は 24 期ミニ同期会も企画されているようですが、残念ですが欠席です。12/17 に所属する合唱団が 40 周年コンサートをするので、その一週間前の練習は休めません。また、参加できる日を楽しみにしています。

高 24(昭 48 卒)瀬戸口二三子(京都市上京区)

元気に過ごしています。「同期会の呼びかけ」の文書も同封されており、いい機会になると強く感じています。当日は他の企画(偶々、世話役)と重なり、欠席です。どうぞ、和やかな会になりますように。

高 26(昭 50 卒)周藤達夫(神戸市灘区)

変わらず、金沢で仕事をしています。

高 28(昭 52 卒)河村桂子(京都市左京区)

京都五山送り火の一つ、松ヶ崎「妙法」の保存会に我が家も入っておりますので、毎年お盆には主人、息子が点火いたします。伝統を継承していく大切さを痛感しております。

高 29(昭 53 卒)石橋敏幸(伊丹市)

64 歳で停年退職しました。現在、新しい職場で働いています。まだまだ現役です。

高 31・理 10(昭 55 卒)中倉行彦(高槻市)

北高を卒業してから 43 年経ちました。西川津校舎に入学し、赤山校舎から卒業しました。伝統と新たな歴史が重なる日々を過ごしました。

大学時代は福岡で過ごし、卒業後は関西の家電メーカーに就職。10 年間は奈良に住んでいましたが、三重へ転勤しました。大阪へ単身赴任する 10 年後まで、津市でサッカー・スポーツ少年団のコーチを務めました。

家電メーカーで定年を迎え、退職後に「還暦の新入社員」として計測機器メーカーに転職。現在に至ります。

ご縁があり、65 周年を迎えた記念すべき年に、近畿双松会の役員(幹事)に加えて頂きました。総会では諸先輩各位の溢れる熱意に圧倒されました。よろしくお願いいたします。

高 34(昭 58 卒)國清辰也(宝塚市)

半導体製造業に従事しています。元気に過ごしています。

高 68(平 29 卒)寺井萌乃

司法試験を終えて

皆様ご無沙汰しております。松江北高校第 68 期卒業生の寺井萌乃と申します。競技かるたの読手をしていた者で思い出していただける方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私は昨年の 3 月に大阪大学高等司法研究科を卒業し、昨年 7 月に令和 5 年度司法試験を受験いたしました。そしておかげさまで無事一発合格することができ、春から第 77 期司法修習生として出発することとなりました。

大学 1 年生の時に参加させていただいた近畿双松会懇親会では多くの先輩方から応援の言葉をいただきました。ありがとうございました。今後は法曹として人とのつながりを大切にし、誰からも慕われる人物になるよう精進したいと思います。

さて、第 77 期司法修習生になるにあたって、百人一首第 77 番の和歌を調べたところ、崇徳院の詠んだ「瀬を早み 岩にせかるる滝川の われても末に 逢はむとぞ思う」という歌でした。川の瀬の流れは速く、岩にせき止められて 2 つに分かれてしまいが、岩を超えれば再び 1 つになるようにいつか再会しようという歌です。

この和歌のようにいつかまた皆様と再会できることを楽しみにしております。

「近況報告」(緊急追加版)

大きな賞をいただいて

高 43(平 4 卒) 安達 宏昭(箕面市)



2024 年 2 月 14 日に、内閣府の科学技術・イノベーション推進事務局が開催する「第 6 回日本オープンイノベーション大賞」の表彰式が行われ、「日本発革新的酸化制御技術 MA-T System によるオープンイノベーション ～感染症対策や医薬、高分子表面の機能化、エネルギー生産などの広範な社会実装～」が、最高賞である「内閣総理大臣賞」を受賞しました。



本表彰は、オープンイノベーションの取組みで、模範となるようなもの、社会インパクトの大きいもの、持続可能性のあるものについて、担当分野ごとの大賞、

長官賞、経済団体、学術団体の会長賞等の表彰をするとともに、各賞の中で最も優れたものを内閣総理大臣賞として表彰するもので、我が国の科学技術イノベーション創出を加速することを目指しています。

MA-T[®]は、株式会社エースネットが17年の歳月をかけて開発した技術ですが、2014 年に知人を通じて MA-T[®]とのご縁があり、大阪大学へ繋いだことがきっかけとなり、基本原理が解明され、特許出願へと進み、さらなる技術進化に至りました。

私は MA-T[®]の革新性に衝撃を受け、2016 年に大阪大学発ベンチャー「株式会社 dotAqua」を起業し、2020 年 6 月にアース製薬株式会社とエースネット、dotAqua の 3 者間包括業務提携が実現したことで、大きく前進することになりました。当時、新型コロナウイルスが大流行していたこともあり、高い効果と安全性を両立する MA-T[®]除菌剤が脚光を浴びました。

さらに大きな展開とするために、2020 年 11 月に「一般社団法人日本 MA-T 工業会」を設立し、産業界の幅広い分野から加盟企業を募り、38 社の会員企業からなる業界団体を発足させました。私は専務理事と事務局長を兼務する大役をいただき、工業会発展のため、尽力してきました。現在、工業会の会員は120社を越え、MA-T[®]の社会実装を精力的に推進中です。

この度、「内閣総理大臣賞」という大変名誉な賞をいただき、10 年間の努力が報われました。MA-T[®]に関わる皆様に感謝するとともに、今回の受賞を励みとして、より広範な応用展開とさらなる社会実装に繋がるよう、一層精進し、邁進したいと思います。

(株式会社 dotAqua 代表取締役社長 一般社団法人日本 MA-T 工業会 専務理事 兼 事務局長)



最前列右端が安達さん

■65 周年記念号特集投稿

レガッタとミラーボールの思い出

9 期(昭 33 卒)伴 稔也(檀原市)



松江北高の紹介冊子を読ませてもらうと、ボート部が全国大会等で活躍されているとか――

松高西川津校舎時代には、毎年クラス対抗レガッタが大橋川(1000m 程度)で行われていた。

確か 2 学年の秋だったと思う、我がクラスも参加することになり、メンバーを募集するが希望人数がそろわず(私は経験もなくどこ吹く風で聞き流していた)が、同クラスの白山君(屈強で、本チャンの漕艇部員)がそばに来て「メンバーに入ってくれ、君はスポーツ万能だし、少し練習すればすぐうまくなるよ」と。

今、思い出してもなぜその時、「仕方がないな、やってみるか」と答えたか思い出せない。しかし、この一言で、地獄の特訓が始まった。オールで水をかくくらいと思っていたが、まず、8 名がタイミングを合わせることに、これも結構難しい。が、スピードが上がってきたとき、オールの先の櫂(ブレードという)が、水面からちょっとでも深く入りすぎると持ち上げるのが遅れ、オールが腹部を激しく打ち、座席から、ひっくり返る。これを「腹切り」といい、この繰り返しで、帰宅後、風呂で腹部を見たら、紫色の筋だらけ。

若さというもののお陰で、腕、お尻の痛さも徐々に和らいできて、4～5 日間ほど練習すると、周りの風景を見る余裕が出てきた。今の宍道湖大橋(勿論、当時はない)のあたりまで行くと、夕日が沈む瞬間に遭遇し、雲間からの乱光線の変化に感激した。

試合当日、今のくにびき大橋(勿論、当時はない)付近スタート。両岸に同窓生や父兄が立ち並び、大声援。結果はどうだったかは覚えていないが、ゴール直後、コックス(ボートの最後尾で舵をとる人)をボートから川に投げ入れたので、そこそこの成績だったと思う。

いつもは、大橋北詰を少し東へ行ったところの小桟橋で着替えをしていたが、観客もまだいるし困ったと思っていたところ、誰かが「確か同窓の木山さんのご姉妹がやっている店が近くにある。頼んでみる」と。

OK が出て行ってみると、屋上に「クラブ松江」の大きなネオンサイン。入り口近くの控室を貸してもらった。着替えを済ませた後、出口と反対方向を覗いてみると、いい香りがして、天井のミラーボールが華やかに回り、ドレス姿が舞っているではないか。

「そうか、これが大人の言う社交場か」、その時決意した。「自分で稼いだお金で、必ずや、ミラーボールの下で、飲みかつ踊るぞ」と。

あれから 75 年、ミラーボールのある店も少なくなった。



大橋南詰 向かって右が伴さん、「高下駄に注目」昭和 31 年夏ごろ

干支は辰！

たつ年は竜・龍 令和六年

10 期(昭 34 卒)佐和田 丸(枚方市)



私事ですが、七回目の年男をむかえました。同級生に、辰雄、龍男、竜子など、多かったのが思い出されます。



賞頂くとよろしいかと存じます。

辰年の冒頭にあたり、竜について少し考えてみました。

○竜が十二支に含まれるのはなぜでしょうか？



十二支は、いうまでもなく、子(ねずみ)丑(うし)寅(とら)卯(うさぎ)辰(たつ)巳(へび)午(うま)未(ひつじ)申(さる)酉(とり)戌(いぬ)亥(いのしし)ですが、よく考えてみると、竜だけが空想の生き物です。なぜ辰と書くのか、そもそも竜はどんな生き物なのか…。少し考えてみたいと思います。

○十二支で唯一の空想的動物など、

十二支は、古代中国で考え出された「年を数えるための数詞」なのです。これをおぼえやすくするために「数字と同じ発音をする動物」があてがわれました。さらに、この時代、竜は皇帝の象徴として実在すると考えられていたため、他の生き物たちと共に、選ばれても不自然でなかったというのです。これとは別に、竜は「ワニ」を指していたという説もあります。

○三つの漢字「辰」「竜」「龍」

十二支では、辰と書き、生き物としては竜か龍と書きますが意味は同じです。それぞれに次のような背景があるといえます。

辰 「振るう」という字に由来。古来中国の十二支は「植物の循環(農作物の成長過程)」を表しており、十二支の五番目にくる辰は「草木が勢いよく成長して形が整った状態」と解釈される。

竜 十二支を覚え易くするために「辰」にあてがわれた生き物が「竜」。古代中国では皇帝を表すために「大蛇が王冠を被っている姿」の象形文字が使われ、これが徐々に変化して「竜」になった。



龍 竜が装飾されてできた文字。いまでは「龍」のほうが旧字体という位置づけだが、竜と龍のどちらで表記する

かのおきまりは特にないとのこと。

○竜はどのような容姿なのか

空想上の生き物である竜の姿は「竜に九似あり(りゅうにきゅうじあり)」と表現され、九つの生き物を掛け合わせた容姿だと表現されています。それによると、角は鹿、頭は駱駝(らくだ)、目は鬼、身体は蛇、腹はみずち(想像上の生き物。蛇に角を生やしたような容姿)、鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛とのこと。想像しただけでもかなりの異形ですね。

さらに、竜は長いひげをたくわえ、顎の下に一枚だけ逆さに生えた鱗があり、これに触れられることを非常に嫌うのだそうです。目上の人を激しく怒らせることを例えた「逆鱗にふれる」という言葉はここからきています。

○仏法の守護神としての竜

禅宗のお寺を訪ねると、天井に描かれた巨大な竜を目にすることがあります。

これは、雲竜図とよばれるもので、有名なところでは、妙心寺、建仁寺(いずれも京都)、関東では鎌倉の建長寺などがあります。雲竜図が描かれるのは、法堂(はつどう)と呼ばれるお堂で、僧侶が修行する場所です。竜は仏法を守護する存在と考えられ、修行する僧侶たちを見守るという意味が込められているのだとか。また竜は水をつかさどる存在でもあるため、火災の難を避ける狙いもあったそうです。

古代中国では皇帝を表した高貴なる竜も、現代においてはさまざまに創作されて、ファンタジー映画やアニメ、ゲームなどに幅広く登場して大人気です。辰年は成長の年でもあります。竜にゆかりのある神社は多いので、いちど参拝してみてもいいかもしれませんね。



火消しの竜の欄間彫刻(富山県の瑞龍寺参道にて)

○龍神様を祀るパワースポットをいくつかあげておきます。

京都府 貴船神社 奥宮
滋賀県 竹生島神社
奈良県 室生龍穴神社
神奈川県 箱根神社・九頭龍神社

龍神様に会いに行き、パワーを貰って、今年一年、幸運にあやかりましょう。

□参考文献

メモリアルアート大野屋メールマガジン、ほか。

農業が温暖化を防ぐか

11 期(昭 35 卒)湯川好満(茨木市)



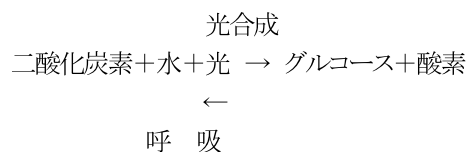
二酸化炭素と地球の温暖化

大気中の二酸化炭素の増加が地球温暖化に影響を与えるとの研究がノーベル物理学賞を得たのは 2021 年です。受賞者は、愛媛県出身、1931(昭 6)年生れの真鍋淑郎氏で、米プリンストン大学上席研究員でした。彼はクラウス・ハッセルマン博士、ジョルジョ・パリージ博士と共に、1960(昭 35)年代から気候変動についてモデルをつくり、世界初の地球温暖化の数値計算を行いました。

生物にとっての光合成の意味

われわれが生活の中で化石燃料を消費すれば、当然ながら酸素を使い、二酸化炭素を排出します。このままだと、酸素が減り、二酸化炭素が増えることになります。ところが自然界には、“光合成”という、酸素と二酸化炭素を循環させる大工場があります。日中、植物が空気中の二酸化炭素と水と太陽光を利用して酸素をつくり、空気中の二酸化炭素を消費するのです。光合成を行わない夜間には酸素を吸収して二酸化炭素を排出しますが(呼吸)、日中の活動と夜間の活動を比べると日中の活動の方がはるかに優位なので、全体としてみれば酸素を排出する量の方が多くなるわけです。

光合成と呼吸の関係を図示すると次のようになります。



光合成でつくられたグルコースという養分は、植物

自身や、それを摂取した動物がエネルギーとして使います。光合成と呼吸が歩調を合わせて動いている限り、酸素、二酸化炭素、水と養分グルコースはぐるぐる回るだけです。動物が呼吸により酸素を消費できるのは光合成が絶え間なく酸素を再生してくれているお陰です。

光合成ができなくなったら

では、地球生命を支える光合成ができなくなったら、どうなるでしょうか。

ある本によると、恐竜が地球上から姿を消したのは、今からおよそ 6,500 万年前と言われています。諸説ある原因の中で、巨大隕石が地球に衝突したことがきっかけであったというのが有力です。メキシコのユカタン半島沖の海底に、衝突による大きなクレーター状の構造が残っているそうです。

巨大隕石の衝突は沿岸地域の生物に大きな直接的被害を与え、また巻き上げられた砂塵などが生物に間接的被害を与えたと想像できます。なぜなら、砂塵によって太陽光が弱くなれば光合成の活動が低下するからです。光合成が止まれば、植物がなくなり、動物の食糧である植物が被害を受ければ、間接的に動物が絶滅する可能性が十分にあります。

太陽と地球の関係

太陽はエネルギーの源です。植物は太陽光の恩恵を受けて緑色をした葉緑素(クロロフィル)で光合成を行ない、グルコースを作り出しています。葉緑素が変色すると光合成はできません。一方、地球は真空中に浮かぶボールみたいなものです。太陽光が地球を暖めますが、大気中の空間は魔法瓶の中のようなもので、熱伝導や対流といった、熱が逃げていく仕組みがありません。このことも温暖化に関わっています。

ちなみに、太陽光はオゾン層を通り、可視光より波長の短い紫外線の大部分はオゾン層で吸収され、地表に届きません。紫外線は DNA を壊す働きを持っているので、オゾン層の存在はありがたいのです。

光合成と人間の呼吸の関係

大気中には約 21%の酸素がありますが、人ひとりが 1 日の中で吸って吐き出す呼気中の酸素濃度は 16% くらいです。これらの差の 5%は、呼吸によって酸素が二酸化炭素に変わることによって生じています。ここで、光合成とわれわれの呼吸の関係を考えてみましょう。

ある木が、30 年間で 5 m³の体積を占める大木にな

り、水分を除いた重さが2.5トン、そこに含まれる炭素の重さが約 1 トンになったとします。これは二酸化炭素に換算すると 3.7 トンに相当します。1 年あたりにすると 120 kg 程度です。一方、人間は 1 日に大体 1 kg の二酸化炭素を吐き出していると言われており、1 年では 365 kg になります。大雑把に言えば、一人が出す二酸化炭素の方が、木 1 本が吸収する二酸化炭素よりだいぶ多いという感じになります。



湯川さん耕作中の丹波の黒大豆の畑



農作業中の湯川さん

地球温暖化対策としての農業

以上で述べた点から考えると、植物(森林とか農作物)の栽培面積を増やすことが、食料確保のためだけではなく、地球温暖化の対策として唯一の方法と思います。これは国をあげて考えるべき農業政策ではないでしょうか。

ヘルン先生

11 期(昭 35 卒)押田良樹(吹田市)



65 周年記念総会の講演講師は、会員皆が待ち望んだ、母校の旧師であるヘルン先生の曾孫小泉凡氏であった。

凡氏には大変多忙なスケジュールの中、ヘルンの教え子である我々後輩達のために労を取っていただき心から感謝したい。

そして、その講演内容は、ヘルン先生の精神が、没後 120 年を経た今、混迷の度を深める世界にとって、いかに大切なものであるかを、改めて感じさせるものであった。それと同時に、ヘルン先生の曾孫である凡氏が、ヘルン先生の教え子たちの孫・曾孫世代に当たる後輩たちを相手に講演するということは、ヘルン先生と母校との関わりを改めて強く感じさせる意義深い機会であった。

英国人ラフカディオ・ハーンは明治 29 年に小泉家に入夫する形で日本人小泉八雲となった。

しかし、松江では「ヘルンさん、ヘルン先生」と呼ばれていた。

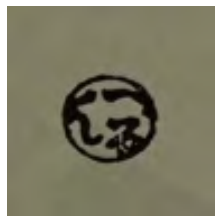
島根県尋常中学校との間に取り交わされた雇用に関する「条約書」は、毛利八彌という県の役人によって達筆で記され、現在小泉八雲記念館に所蔵されている。それには「ハーン」の名前が「ヘルン」と書かれている。毛利が「Hearn」をローマ字式に読んだためだろう。

これに対して、ヘルン先生は何のクレームも付けずに受け入れ、むしろその呼び名を気に入って、「へるん」と刻した印判まで作っている。

この一事をもってしても、ヘルン先生が如何に寛容な精神を持っていたかが分かる。このことは、現在「オープン・マインド」と呼ばれる、先生の精神の大きな要素の一つである「郷に入りては郷に従え」という姿勢を

象徴しているように思える。

私が松江でのハーン、後の小泉八雲を「ヘルン」と呼ぶことにしているのは、その一事に感じ入ったことによる。



「へるん」の印判

ヘルン先生の名前を知ったのはいつ頃だろうか。凡氏の講演にあった「子供塾」のような、子供を対象にした、ヘルンさんに親しむようなイベントは、子供時代当時の記憶にない。

ただ、ヘルン先生の教え子のひとりである、ヘルン旧居の主人根岸磐井氏の息子さん夫妻と両親が懇意にしていたので、何となくヘルン先生の名前は知っていたという程度であった。

初めてヘルン先生のことを具体的に知ったのは昭和 32 年、高校 1 年の時だった。今から 67 年昔のことだ。

クラスの担任は福岡憲一郎という英語の先生だった。先生は松高 1 期で大学を出て 4 年目、年齢的にも我々の兄貴分のような存在だった。授業だけでなくいろいろな面で熱心に指導していただいた。

このクラスの結束は固く、2 年に進級する前に全員が投稿して文集を作った。

印刷と製本は誰の提案だったのか松江刑務所に頼んで安く上がった。その文集はいつの間にか散逸してしまっていたが、10 数年前、級友が保存しているのを知り、コピーして送ってもらった。

時々目にしては、当時の先生や級友たちのことを懐かしんでいる。

2 年の夏休みには、1 年の福岡クラスの仲間で先生も交えて大山でキャンプを楽しんだ。

ついでに言うと、3 年の時の担任は後に母校の校長や双松会の会長を務めた松本幹彦先生だった。福岡先生と松本先生は松江中学入学から松江高校、島根大学と 10 年間同期同窓だった。

福岡先生は英語の授業で副読本にヘルン先生の作品を使い、確か怪談の「むじな」を訳すように宿題を出され、苦勞したのを覚えている。

それから、ヘルン先生に少し興味を持ち始め、ヘルン旧居や旧小泉八雲記念館を見学したりした。

旧居では根岸磐井氏の未亡人である菖蒲さんが、当時 70 歳をとうに過ぎておられたと思うがご健在で、見学者に「ヘルン先生は、あの池の蛙が蛇に食べられるのを可哀そうに思われて、蛙が食べられないように、蛇におかずの肉を与えたりされていました」と、ご自分で目撃されたように名調子で説明されていた。

成人してからは、長らくヘルン作品に接するということもないまま何年も経過した。



旧小泉八雲記念館(左が高1時の筆者。(昭和33年))

昭和59年にNHKテレビで「日本の面影」というドラマが放映された。

昨年他界した山田太一の脚本によるもので、ジョージ・チャキリスがヘルン先生を演じ、檀ふみがセツに扮した。

チャキリスはギリシア系で、我々の世代では「ウエストサイド物語」の主演でありにも有名なスターだった。

ヘルン先生の心からの友人西田千太郎役は小林薫、その他セツの養父役佐野浅夫などの俳優たちも出雲弁を上手に使いこなし、それぞれの役を演じていた。

大変気に入った作品であり、何年か一度 NHK のBSで再放送があるがDVDが出ればいいのと思う。

それに触発され、ヘルン先生をもっと知りたくなり、関連の書籍を読み漁り、挙句は気になっていた松江の第二の住まいの場所を究明するまでになってしまった。(近畿双松会HP、2022.9.12 記事)

来年大阪で万博が開かれる。我が家は1970年の大阪万博の開催地のすぐ近くにある。万博外周道路を1周(5 km)するウォーキングを時計回りでするときは、まず中国道や中央環状道路の上に架かる「進歩橋」を

渡る。6割がた歩くと東の方に架かっている「調和橋」を渡ることになる。あの万博のテーマ「人類の進歩と調和」に因んだ命名である。

橋を渡るときいつも思う。確かにあれから50年以上経って、あらゆる科学技術の進歩は目覚ましいものがある。

ちょうどあの頃、私は銀行の第一次オンラインシステムの構築要員として営業店から本部のシステム部門に駆り出され、文字通り夜に日を継ぐ日々を送っていた。そのため、万博見物は一度しかできず、大変な人出と月の石を拝んだことだけが記憶に残っている。

その当時、われわれの扱うシステム上のデータ容量を表す一番大きな単位は「KB」(キロバイト)であった。

最小単位である1Byte(バイト)の1024倍が1KBと表示された。

KBの1024倍であるMB(メガバイト)という語すら使わなかった。

コンピューターセンターのメインマシンのCPUが512Kとかだった時代である。ましてやMBの1024倍であるGB(ギガバイト)や、そのまた1024倍のTB(テラバイト)など名前さえ知らなかった。現在はスマホでさえ容量が何10GBという時代である。これは技術進歩を表す象徴的な変化である。

しかし、このように科学技術は想像もつかないくらいに進歩したが、人類そのものは果たして進歩しているのだろうか。

進歩していないことは、現在の世界情勢を見れば明らかである。

自然との調和も軽視され、SDGsの課題も深刻になっている。

もう一度「進歩と調和」をテーマに掲げたらどうだと言いたい気持ちだ。

世界の国々の指導者が、少しでもヘルン先生の精神に共鳴するならば、他民族、他宗教、多文化、自然に対して、世界のいたるところで起きている愚挙は減るだろうと思いつつながら、人間のどうしようもない業をつくづく思ってしまう。

人物や何かの愛好者や主義者を、対象に「アン」をつけて表す語法がある。

例えば、「コメディアン」とか「ベジタリアン」など。

また同じく「スト」をつける場合もあるようだ。例えば「エコミスト」とか「フェミニスト」。また「サクリスト」とか「コマ

キスト」というものもある、いや、あったというべきか。

ハーンの愛好者は「ハーニアン」と称するようだ。「ヘルン」に執着する私は、その式で行くと「ヘルニアン」ということになるかと思って、友人に話すと、「それは語呂が悪いのでは」と言われた。なるほど、これでは確かに何かの病に悩んでいる人かと思われかねない。

それならばと、もう一つの「〇〇スト」方式にして「ヘルニスト」と勝手に称している。日本ではおそらく私一人だけだろう。近畿双松会の中で第2、第3の「ヘルニスト」が現れることを期待したい。

凡氏の講演にあった、ヘルン先生が伝えたかったことの中に「オープン・マインド」で「五感」をとき澄ませて世界を見ることが大切という言葉を大切にしたい。

尤も、加齢のため五感はずっと鈍くなっているの
で、研ぎ澄ますのはなかなか大変だと思うが。



松江との縁 ～始まりと終わり～

14期(昭38卒)川上克彦(池田市)



私たち4人の兄弟と両親の松江での生活は昭和22年3月、父の日赤病院赴任と共に始まった。鳥取県日野郡根雨から引っ越した最初の住まいは北田町の普門院近くで堀割沿いの借り上げ民家。近隣に牛舎や確か避病院がひっそりとあったような記憶がある。25年末には宍道湖畔の一畑電鉄北松江駅に近い中原町で、今は無き都谷病院内の宿舎へ移住した。

そこから長兄の峻一郎は昭和26年に松江高校へ入学し、29年3月第5期の卒業。次兄の彰二郎は27年に同校へ入学し、30年3月、第6期の卒業生となる。兄二人は当時稀だったサッカー部に所属していた。姉の郁子も33年同校に入学し、36年第12期の卒業。末弟の私は35年同校へ入学し、38年14期の卒業です。

この間に住まいは新大橋南の和多見町から殿町の大手門近くへ、更に上乃木町等へと橋北、橋南を計6回も転居した。松高には私たち兄弟4人がほぼ踵を接するように在学し、そこで多くの出会いと数々の貴重な体験を積み重ね、終生の友情を育む特別な場でもあった。

「松江人」「松高生」としての SPiRiT を学んだ縁を想い、往時を懐かしんでいる此の頃です。

四人の兄弟は松高卒業後には松江を離れた。工学系を志していた長兄峻一郎は医師となり、後には松江日赤病院の外科勤務を経て、父が開設していた宍道湖岸・魚町の川上外科を引き継いだ。だが、平成20年72歳で急逝。次兄彰二郎は東北大学定年後も仙台在住で現在も研究者らしい。姉は豊中に住み長年北摂の公立高校で世界史教師を勤め、本会会員でした。

が平成 29 年 75 歳で病没しました。外科医となった私は池田市に住み、平成 4 年から約 20 年間小倉、大分の病院勤務を経て帰阪。箕面市立老健で約 6 年間管理医を勤め現在は非常勤です。

昨年 11 月松江の病院、住居を継承した長兄の子達はこれらを譲渡したため、次兄と私の故郷・松江の“よすが”は松江霊園に眠る両親、長兄夫婦の墓のみとなった。

75 年に及んだ私達の松江との関りは残念ながら終焉を迎えつつある。近畿双松会会員に長兄峻一郎、次兄彰二郎、姉郁子の松江高校の同期でご厚誼を賜った方々もおありかと思い、消息と近況報告の拙文を寄せました。



退職後に開けた不思議な出会い

14 期(昭 38 卒)小泉勝是(長岡京市)



不思議なご縁で、2012 年に近畿双松会に入った。お陰で色々な出会いがあった。そして翌年には大阪高齢者大学校の「子ども科学・手作りおもちゃ体験科(略称:子ども教室)」に入学し、そこでも沢山の出会いがあった。

この教室は子どもたちに科学の面白さを実験しながら教える科学実験講師養成講座だ。以来 10 年間私はこの教室に通い科学の授業やおもちゃ作りを楽しんできた。

毎年 30 人ほどの生徒(シニア)が入れ替わる仕組みになっており、色んな人生を歩んできた人たちとの思いがけない出会いがいづつも待っていた。その内の三人の友人との出会いを紹介したい。

一人目は入学して間もなく親しくなった同い年のおもちゃ作りの担当講師である。この友人は私が 55 年前に初めて入社試験を受けたとき、同じ会社を受けた同期生であると判りビックリ！ 私は複数受験した別の会社に入社したのでその会社には入社しなかったが本当に奇遇で今やとても親しい仲間である。

二人目は、大阪市に在住している鳥取県日野町出身の同級生(女性)である。

同じ山陰出身ということで直ぐに親しくなったが、“日野町？”とはどっかで聞いたなと頭を巡らしやっと思いついた。数年前に我が家の隣に引っ越してきた友人(男性)が、鳥取県日野町出身だった。日野町は狭い町だから知り合いのこともすぐに両者に尋ねたが、

二人とも互いに知らないとの反応だった。暫くしてから彼は婿養子、彼女は嫁入りで旧姓とは違うことが分かり、再び両者に尋ね直した。何と二人ともに日野町の小学校の同級生だったと判明した。これまた本当に奇縁というしかない。今も二人と飲み会に付き合うとこの話題で盛り上がる。

三人目は昨年の同級生で、コロナ感染拡大中のため、同じクラスに居ながら会話をする機会があまりなかった。半年くらい経過してから偶々会話をするうちにまたまた奇遇の出会いと判明した。私は水彩画の同好会に所属しているが、何とこの友人はこの同好会の創設者(故人)と親しかった。そしてサイクリング仲間として付き合い一緒にヨーロッパを自転車旅行したと言うではないか。私は近畿双松会と“絵”を通じて繋がったが、彼もまた“絵”に繋がっていた。以来、彼はおもちゃ作りが得意なので色々面白いユニークなおもちゃを教えてもらう仲になった。

この歳になって子ども教室での授業やおもちゃづくりは、私にとって新しい世界に目覚める機会になった。子どもたちにおもちゃ作りを教える代わりに、子どもたちから元気もらい日々を楽しく過ごす大変大きな生き甲斐を得ることが出来た。それと並ぶ大きな成果は、毎年教室で色々な人との出会いがあり、次々と新しい友人が出来ることである。しかもその中には思いもしない、見えない“糸”で繋がっている人がいるということである。本当に凄いことで、人との出会いを心から感謝し、人のつながりとはなんと不思議なものだと改めて驚いている。



伏見濠川(中書島)



大山崎山荘美術館(大山崎)



自治会「ふれあい 作品展示会」

おもちゃと絵を展示

どうする!?「西川津校舎 跡地之碑」
～若かりし日のわが夢ぞ
そこに狭霧らふ～

16 期(昭 40 卒)松本耕司(枚方市)



2021(R3)年の松江からの双松会会報 42 号に、西川津校舎跡地之碑(以下「跡地碑」)が紹介され、ぜひ訪れて欲しいとの記事が載った。2023(R5)年の同 44 号には、跡地碑を訪れた卒業生が、跡地碑が置かれている松江市の駐車場が荒れていることに義憤然しがたく、市の管理事務所に当面の除草をお願いしたとの記事が載った。跡地碑の管理には双松会の支援が必要ではないかと指摘もされていた。

私も西川津卒業組であり、同期の双松会金平憲幹(現副会長)が跡地碑の管理に苦勞していることは早くから知っていたが、昨年夏、この駐車場でサーカスの公演があり、カラフルなテントが跡地碑を圧倒している風景を見て、流石に跡地碑を可哀そうに思った。西川津校舎最後の卒業組も 60 歳を過ぎつつあり、跡地碑建立の原点に戻り、今の仮置きのような状態から、半恒久的に保存をしていく最後のタイミングが来ているのではないかと思います、できれば双松会 150 周年記念事業として取り上げていただけないかと念じながら、この原稿を書いている。

西川津校舎時代は 1950(S25)年から 1978(S53)年 3 月の赤山復帰までの 27 年半で、卒業期では 2 期から 31 期までが関係し、卒業生数は 1 万 3 千余人にのぼる。

我が近畿双松会報(2006/H18 年号)に当時の松本幹彦双松会長に寄稿いただいた一文では、故地赤山への移転に際して、当時の同窓会は挙げて「卒業生は此地に限りない愛惜の情を寄せているので、校地の一部を残礎の地として保存してほしい」と県に陳情したとある。

その結果、西川津校舎跡地の西半分にできた「県

立プール」の敷地の一角を借用し、校舎玄関前にあった「質実剛健」の碑を移し、さらにその傍には佐藤春夫の「望郷五月歌」の一節「若かりし日のわが夢ぞ そこに狭霧らふ」を彫り込んだ記念碑(跡地碑)を建立し、栄光の歴史を留めることができたご紹介いただいている。



現在の松江北高校跡地之碑「若かりし日のわが夢ぞ そこに狭霧らふ」 2022(R4)3 月 22 日撮影:

跡地碑の除幕式が行われたのは 1979(S54)年 7 月、文字は移転時の前川多助校長の揮毫、裏面には兼折博元校長の文になる「いま、学舎の姿なく、校地また昔日の面影をとどめずといえども、此処に託された若者たちの三春は、永くこの地にとどまって去ることはない」との建立趣旨が刻まれている。なお、並置された「質実剛健」の碑の文字は、1966(S41)年、創立 90 周年を記念し旧制松江中学の西村房太郎校長先生に揮毫をいただいたものである。

さて、跡地碑が建立された 1970 年代後半の松江の状況は、私は 30 歳代前半の大阪暮らしで知る由もな



2009(H21)年当時:旧県立プール敷地内

左:質実剛健碑 右:跡地碑

かったが、前述、松本幹彦元会長のご寄稿を契機に、2009(H21)年、当時の金平憲幹事長に案内され、「県立プール敷地内」の跡地碑を初めて見に行った時の記憶は鮮明である。

暑いときであったが、松と夏草に囲まれて(前掲写真)、松籟も聞こえ、自然に芭蕉の「夏草や兵(ツモ)どもが夢の跡」の句が口をついて出てくるなど、建立趣旨にも合い、なぜか北高らしいなど、好印象を抱いたことを覚えている。

しかし、その後、事態は大きく変化し、県立プールが上乃木へ移転し、土地が松江市に移管されて駐車場になったことから、跡地碑も今のように松江市駐車場の中で管理されるようになり、最終的に2014(H26)年1月、現在の駐車場の一角(後掲写真)に落ち着いたと聞いている。場所は、ぐにびき大橋を北上して松江市総合体育館の西向い、「北公園南交差点」の北西角で、勿論、かつての西川津校舎の敷地内である。



2019(H31)年撮影:現在地風景(後方、大橋川、松江駅)

左:質実剛健碑 右:跡地碑

(手前の定礎碑は西川津校舎とは関係なく、旧県立プールの建設時のものと思われる)

この松江市駐車場地内になってからの、双松会金平幹事長(当時)の苦労がわかるだけに言いこくはあるが、やはり「仮置き」状態であることの問題点を大きく感じる。

即ち、写真からもわかるように、①地面(砂利)に直置きで、車の排気ガスを受ける。②標柱もなく「何の碑」であるかが不明。③アクセスもわかりにくい、④松も緑も少ない・・・などで、当初の「市民の憩いの場にも…」という陳情時の思いとはほど遠い状況でもある。

従って、少なくとも地面に直置き状態はやめて石造りの台座を置き、跡地碑の標柱や半恒久的な説明

板、案内標識板を設置するなど、双松会にはまずは訪れやすい状況をつくっていただきたいと願っている。松や緑や花に囲まれてまでは将来の宿題としても。

松江市という相手もあり、費用もかかることだが、先人たちが「三春の思いはこの地にとどまって去ることはない」とまで思いを込めて設置いただいたこの跡地碑の現状は不十分ではないかという思いから、この拙文をしたためた。

近畿双松会の皆様には是非ご関心を持っていただき、松江にお帰りの際には一度現地を訪れていただきたいと思うし、双松会には我々西川津卒業組が元気なうちに、なんとか方向付けをしていただきたいと願っている次第である。



少子化問題に寄せて

16 期(昭 40 卒)森藤哲章(樫原市)



人口減少や未婚率上昇等が社会問題になっています。厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が公表した最新の調査結果によると、2020 年の 50 歳までの未婚率全国平均は男性が 28.25%、女性が 17.81%に達しました。近年は特に女性の伸びが顕著で、少子化が加速しているとのこと。私が働いている医療現場でも有能な職員(医者・看護師には経済力がある)達に独身者が多いことに驚かされます。

未婚率の上昇には、経済的に恵まれない・幸運な出会いが無い・女性の仕事と妊娠や子育て両立支援等への社会的制度が充分でない等の色々な理由が考えられます。結婚を希望する全員が平等に結婚できたならもっと幸せな日本になるだろうと思います。

ここでは、これらの問題について思うところを述べたいと思います。

従来、オスとメスは二項対立的な表現型(♂/♀)と捉えられてきましたが、最近ではこれを連続的な表現型(♂♂…♂…♀…♀♀)として捉え直す考え方が生まれています。これを「性スペクトラム」と言い、文部科学省新学術領域研究のひとつとなっております。

近年では LGBT や同性婚およびスポーツ選手のセックスチェック等も社会問題としてクローズアップされています。LGBT に関しては、松江市でも R5 年 11 月 25 日レインボーパレード(注;LGBTQ など、いわゆる性的マイノリティーの人たちへの支援の輪を広げよう)が島根県で初めて開催されました。

わたしは男性の女性化・女性の男性化も未婚率上昇の大きな一因ではないかと思います。私が子供の頃は、動物の様に野原を駆け巡って遊ぶことが多くあり人間も野性味がありました。男性の男らしさの欠如は

何時の時代から始まったのでしょうか？

近年、環境ホルモンについても研究が進められ対策が講じられてきております。学問の進歩と共に遺伝子研究も発展してきました。動物によっては、Y 染色体が徐々に消えかかっているという報告もあります。男性の女性化は人間だけの問題ではないのかも知れません。

結婚を希望しない男女が増えている一方で、子供がほしいのにできないカップルもいます。この問題については医学的な対策がいくつか考えられますが、課題も多いのが現状です。

例えば、男性が不妊症である場合の精子の提供です。精子バンクシステムを長らく行っていた慶応大学病院では子供が大人になってから「僕(わたし)の父親は誰？」という出自の問題等について法整備が進まないためドナー確保が難しくなり中止しています。精子バンクについてはインターネット等に宣伝(例;デンマークに本社のあるクリオス・インターナショナル等)が色々出ていますし、SNS を通じた“精子”提供も話題になっています。日本には現在、生殖補助医療を規制する法律は存在しないようです。

また、クローン技術や iPS 細胞、受精卵のゲノム編集(デザイナーベビー)から子供を誕生させることは世界的に研究されていますが、人間に適用することは倫理面、安全面での課題もあり現時点では世界的に禁止されています。

岸田政権は異次元の少子化対策として、令和 5 年 6 月に児童手当や育児休業給付の拡充などの具体策を盛り込んだ「こども未来戦略方針」を閣議決定しました。

予算や法律の面から結婚問題の改善をはかるだけではなく、結婚後にお互いの立場を理解しあい 助け合う優しい社会を実現させることが必要と思います。

では、その方法はどのようなものでしょうか？ ここが予算付け以上に重要な解決策と思います。結婚を希望している全員が結婚できるシステムや、子供を欲しがっている人が安心して子供を作れる幸せな世の中になって欲しいものです。

合計特殊出生率が高いフランスやスウェーデンではパクス(PACS、連帯市民協約)やサムボ(同棲)といった、結婚(法律婚、教会婚)よりも関係の成立・解消の手续が簡略で、結婚に準じた法的保護を受けること

ができる制度があるためであるとのことです。

参考までに、今年の大河ドラマに登場する紫式部が活躍した平安時代は母系社会だったとのことです。

島根県の人口減少解消・過疎化対策のためにも解決策を皆で真剣に考える必要があると思います。

参考

NHK『ヒューマニエンス〜40億年のたぐらみ〜』

- 1, 「オトコとオンナ“性”のゆらぎのミステリー」(初回放送日: 2020年10月1日。深見真紀; 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部部長等)
- 2, 「“性とウイルス” 人間を生んだ力とは?」(初回放送日: 2021年4月29日。黒岩麻里; 北海道大学大学院理学研究院教授等)



この頃思うこと(2)

19期(昭43卒)岩田一志(長岡京市)



私は雨風のない日は大抵近くの川土手に、単行本を片手に散歩しています。その散歩の途中、川と川が交差する川土手にちょっとした広場があり、比較的大きな石を支えに足の脛脛や腰など体の各部位の柔軟体操といえば大袈裟ですが、要は軽いストレッチを行っています。その際、体の各部位が痛い位にいじめ、その痛さに耐えるべく我慢して、筋肉などを鍛えています。

ある人から聞いたのですが、人の体の各部位は大半がたんぱく質成分で形成されており、老いにブレーキをかけ、各部署の機能を正常に維持するためには、毎日豚肉700グラム程度のたんぱく質摂取が必要とのことです。高齢になり到底量的には摂取できませんが、熱量源である糖、炭水化物や脂質を控えた食事を摂っています。なお、筋肉にはインフルエンザやコロナなど様々な病原菌の抵抗力が宿ると聞かれ、積極的に散歩の傍らストレッチで筋肉をいじめています。

さて、世間ではいじめや暴力、殺人、紛争、戦争など争い事のニュースが毎日のように流れています。人類の歴史は争い事の歴史と言っても過言ではなく、今後も争い事はこの世の中から消えるとは思われません。当事者にはそれなりの自己主張・言い分や複雑な理由があると思いますが、私達は、今、人(動物としての)社会ではなく人間(高度の人格を持った)社会の中で生活しているのですから、お互いを尊重し、相互理解の中で、争い事を消滅・解決してゆく(人間関係を高揚する)べきだと思うのです。

前回にも述べた通り、この世の中は、動物としての人类社会から人格を持った人間社会に変遷・進化してきているわけですから、他人を思いやり、慈しみ、決していじめたり、害してはならない、いじめるのはせいぜい自分自身にすべきだと思うこの頃です。

※「この頃思うこと」: 2020(令和2)年度会報に掲載

「繋ぐ」—その先に—

19 期(昭 43 卒)池田喜美代(門真市)



かつて、大輪町の実家の前の通りをはさんだ向かいがユースホステルだった。名前は松江荘という。

夏休みの夕方になると宿泊の若者がひっきりなしに来了。夜はミーティングであろう、楽しそうな笑い声が漏れ聞こえ、朝は6時過ぎになると「センセイ」と呼ばれていた館長さんの「きしょーう、きしょーう」の大きい声が響いた。忙しい日には母も料理の手伝いに駆り出され、ある日、学校から帰ると見知らぬ靴が2足玄関にあり、聞くと泊まらずにいた2人を泊めたとのことだった。そこで起こる非日常のすべてが楽しそうで、いつしか私もそのような旅をしたいと思うようになった。彦根の県短(ケンタン——滋賀での通称)に入学すると、早速ユースホステル同好会に入会した。

活動は恒例の京都宇多野への歓迎ホスティングから始まった。実家で憧れていた光景のなかに自分がいた。

同好会は主に下宿人の集まりで、長い休みが近づくとだれかの下宿に集まっては分厚い時刻表をひろげ、列車をつないで計画を練った。計画が決まるとユースホステルに往復はがきで宿泊の申し込みをする。宿泊の取れない日はもよりの駅での夜明かし覚悟で出発したが、実際には深夜は駅から締め出されて駅前で新聞を敷いて座り、早朝駅が開くのを待った。信州、能登、四国をユースホステル旅した。

1年のあいだに自信を深めた私は、2年の夏休みは友人と2人で、北海道を周遊券で20日間ほどまわった。自由旅行は日程も融通が利く。あのころ人気だった摩周湖を訪ねた日は、もうもうと霧が立ち込めて

全く見えず、急遽つぎの日にも訪ねることに。今度は中央の小島がはっきり見えて2人で感動したのを今でも覚えている。ただ摩周湖に向かうバスガイドの案内が一語一句同じなのには閉口したがそれも思い出、すべてが自由で楽しかった。今考えると少し危険なこともあったがそれも今では思い出だ。以降、ツアーなどで北海道初め、国内や海外を旅行したが、あの旅の感動に勝るものはなかった。

ただ、北海道の東部、阿寒の近くの原生林に囲まれた神秘の小さな湖、オンネトーにも行きたかったのだが、その当時は交通手段がほとんど無く行けなかった。そして、そのことは積み残した荷物のようにわたしの心に引っかかり、折りにふれ気になった。

貧乏旅行とはいえ費用はかかる。私の下に弟と妹がいる我が家はとうてい経済的に余裕があったとは思えなかったが、母はすんなりと振り込んでくれた。多分、自身が出来なかったこと、それ以上にいろいろな経験をしてほしいとの思いがあったと推察する。

母は私の子育てのあいだ、共働きだった我が家の手伝いに月に1度来てくれたが、松江への帰りをバスにしてみたり、京都で市内観光バスに乗ったりとささやかに楽しんでいらした。そういえば母に頼まれて摩周湖の売店から送った木彫りの熊は今も実家の床の間に鎮座している。

子どもたちが大学生になったころ、私の経験のようなことをしてほしいと願ったがその気配もなく、少し物足りない気持ちでいた。学生のあいだにしか出来ないこと、就職して社会に出れば出来ないだろうこと。



ついにオンネトーへ！

長男が学生生活最後の年の就職を控えた1月、中学時代から熱中していたラグビーの聖地ニュージーランドに行くと言ひ、手配をして単身出発、2か月余り滞在し現地でラグビーのチームに入れてもらったり、もちろんオールブラックスの試合を観戦したりと充実した生活を楽しんできた。私はここぞとばかり、二男も遅れてニュージーランドの兄の元へ送り出し海外デビューさせ、彼は10日ほど滞在し帰ってきた。二男はその後学生生活最後の年に、今度は季節を変えて単身で訪ねている。今、長男は就職してから海外赴任、出張とこなす日々だ。二男は第1子である長女に海外でも呼びやすくとの願ひで「沙良」(さら)と命名した。

年明けの1月5日、長男の中3の長女が3か月間のニュージーランド留学に出発し、ホームステイしながら初めての海外生活をスタートさせている。3月に帰ってくると高校生になる。

とにかく元気に過ごし、いろいろなことを広く吸収して見聞して欲しい。聞けば、自身もニュージーランドに留学したいと思っていたのだという。校内での選抜の面接で、強くアピールしたのだと思う。

彼女の、始まったばかりのこの貴重な経験は、これからの人生の幅を広げていくだろう。そして次の世代にも形は違ふだろうが、確実に繋がっていくだろうと期待している。

ところで私の方は、昨年6月、学生時代からずっと気にかかっていたオンネトーにとうとう行くことができた。学生の時と違い、夫と2人で。

50年余の思いをつのらせて訪ねたオンネトーは人の気配もなく静寂の中にあった。その湖は白みがかった水色が美しく、ずっと変わらずにそこにあり、そしてずっと私を待っていてくれたと感じた。今スマホの待ち受け画面にしている。スマホを開ける度に心が少し豊かになる。

私の夢

20期(昭44卒)山寄麻里子(大東市)



いつだったか、英会話サークルの同い年の男性が「僕らは終活のときだ」と言い出した。驚いて、同世代の女性と「何を言ってるの。私達はまだこれからだよ」と反論した。

昨年、次女の中学校時代の担任の先生から電話があった。「放課後、小学生が集まって自由に勉強できる場を設けたい。勉強を教えてもらえないだろうか」都合がつきそうなので引き受け、知り合いの元小学校教諭数人にも声をかけた。2人の女性は引き受けてくれたが、1人の男性は「僕たちは散々働いてボランティアもして辞めどきなのに、今更新しいことを始める人なんていないよ」と呆れた。

私はおかしい？ 今、73歳。やりたいことは沢山ある。これからだ。どうして、もう自分の人生にけりをつけることが出来ようか。

2023年6月にNHKEテレで『赤い靴を履いて～作家有吉佐和子の問いかけ』という番組が放映された。敬愛する文藝春秋諸雑誌の元編集長高橋一清さんが出演されるので、テレビの前に座った。

番組の中で、有吉佐和子が翻訳した仏作家ブワット・グルーの『最後の植民地』が紹介された。有吉佐和子は20世紀後半の現在、抑圧され従属孤立した女性が開放されるべき『最後の植民地』という意味を込めて、邦題を決定したという。画面に「長い間不幸を生き抜いてきたからこそ、女には幸福の感得力がある」とテロップが流れた。

番組を観た友人から「山寄さんの幸福至福感とピタリ重なっていて驚きました」とメールが届いた。そう言えば、以前会ったときに「仕事を辞め、子ども達も独立して家を離れ、24時間が全部私の時間。毎日が幸せ」と言ったっけ。そうか、そういうことなのか。友人の言葉が

ストンと胸に落ちた。私は今、諸々の束縛から解放されて自由だから幸せなんだ。

好きで就いた小学校教諭。大学在学中に小学生の家庭教師のアルバイトをした。中2と思って受けたら小2。仕方なく教えている内に小学生を教える楽しさに目覚めた。小学校教諭になろうと思ったが、教育学部ではないので資格は取れない。働きながら通信教育で免許を取得した。この仕事にやりがいを感じていた。辞めたいと思ったことは一度もなかった。再雇用ギリギリの65歳まで働くつもりだった。

ところが、松江の施設で暮らしている父の体調が悪く、61歳で教職を辞すことになった。後ろ髪を引かれながら辞めた…はずだった。なのに、朝起きたときの解放感。目の前の世界がパッと広がっていくようだった。

そこから私の快進撃が始まった。

まずは英語。

1997年に大阪教組女性部の「一北欧・男女共生の旅」に参加して以来、英語の必要性を痛感していた。北欧4カ国を廻り、学校や高齢者施設、男女機会均等オンブズマンを視察。人間を大切にした取り組みに圧倒された。いつか、ツアーではなく個人で再訪したい。向こうの言葉が話せなくても、英語を話せばコミュニケーションが取れる。北欧の人は母語の他に英語も普通に話す。学校で英語教育がしっかりなされているからだ。

退職して直ぐ、森ノ宮にある高齢者大学校(ネーミングが気になるが)に入学した。英会話クラスに5年間在籍し、今はNHKのラジオ英会話と2つの英会話サークルで勉強している。

余談だが、2018年に念願かなって村尾(11期)、田中(9期)、木山(22期)さん、私の4人で北欧へ旅した。私の拙い英語が少しは役に立った。そのときのことは2018年の会報に『北欧&ドイツ道中記』と題して掲載してもらった。

次に書道。保育園児だった息子が習字を習いたいと言うので、仕事が終わって一緒に通った。一流の素晴らしい先生に教えてもらった。息子はとっくに辞めたが、私は30年間続けている。一時は読売展や書芸院展の公募展に応募していたが辞めて、先生のご指導の下、仲間と研究会で切磋琢磨している。

そして文章を書くこと。

近畿双松会60周年記念の特別ゲストとしていらっしやった高橋一清さんとの出会いがきっかけだ。司会をした縁でお話をしているうちに、そのお人柄に魅了された。同じ石見出身という親近感もあった。またお会いしたかったが、それには松江文学学校に入るしかない。文学に興味があるわけでも文章を書きたいわけでもない。思い悩んだが意を決して飛び込んだ。

初めは講義を聴くだけだった。最前列の真ん中に座り、分かりもしないのに質問をした。それでも、一清さんは「いい質問ですね」と分かりやすく丁寧に教えてくださった。2年ほど経った頃だろうか、何だか随筆を書きたくなった。元々、書くことは嫌いではなかった。私の心の奥底に眠っていた「書きたい、表現したい」という願望を一清さんが引き出してくださったのだ。

今は、松江だけではなく、広島の一清さんの講座にも通っている。一清さんと出会ったことは私の人生後半の大きな転機となった。

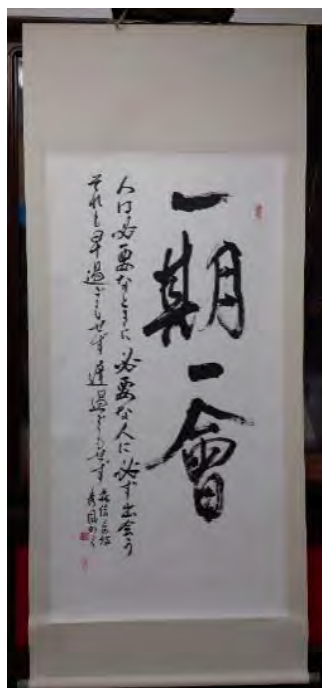
夢はどんどん膨らんでいく。

- ① 流暢な英語を話して外国の人と交流し、色々な国の歴史や文化に触れる。
- ② 精進して納得のいく書を書き、道の世界で言う「守破離」の「破」に近づく。
- ③ 鍛えに鍛え抜かれた文章を書き、何らかの文学賞に応募して受賞する。
- ④ 恵まれない環境の子ども達に勉強を教え、自分

に自信を持たせる。恵まれない環境の子ども達に勉強を教え、自分に自信を持たせる。

そのためにも、食事、睡眠、健康に気を付けて、一日一日を悔いのないよう大切に生きてい。

だから、お父さん、お母さん。あの世からのお迎えは、せめて100歳まで待ってくださいね。



小泉八雲の幻影

22 期(昭 46 卒)鶴羽孝子(尼崎市)



高校三年の時に仲良くなった友人に家へ来ないかと誘われ、ついて行ってみると、なんとそこは「小泉八雲旧居」であった。

小泉八雲旧居の持ち主である根岸家は友人のお母様のご実家で、当時お祖母様が旧居に一人でお住まいだったため、一緒に住んでお祖母様をサポートされていたのだった。表半分を観光客に公開し、裏半分は住居となっていた。公開している座敷と友人の部屋は襖一枚だけで仕切られており、私たちが他愛ないおしゃべりに花を咲かせていると、突然ガラッと襖が開いて「あれ、ここは何？」と観光客が不思議そうに覗き込むのだ。友人にとっては日常茶飯事のことであったのだろう、「ここは違います」と平然と対応していたのが驚きでもあり微笑ましくもあった。

旧居の案内は、普段はお祖母様とお母様がされていたが、観光シーズンには見学客が申し寄せ、猫の手も借りたい程になるため、友人も手伝いに駆け出されていた。よくお邪魔していた私も一緒にお手伝いをするようになった。はじめは観光客の誘導や書籍の販売などをしていたが、お祖母様やお母様が観光客に説明されているのをそばで聞いているうちに、「門前の小僧習わぬ経を読む」のごとく、私もお案内をするようになった。

「八雲は庭が好きで、このあたりに座りよく庭を眺めていました。特に庭の中ほどにある『心字の池』(心の形をした池)や、縁側のそばにある『さるすべりの木』が好きでした。ここで、『知られざる日本の面影』を執筆し、日本を世界に紹介しました。」などご案内したのを記憶している。

それから数年後お祖母様が亡くなられ、友人とお母様は本来のお家に移られた。旧居は松江市が管理するところとなり、すべて公開されることとなった。

私にとっては、夢多き多感な高校時代の思い出の場所であり、今もなお小泉八雲の神秘的な人間像に惹かれるのである。



神在月の国に降り立つ

22期(昭46卒)村田 貢(京都市)



『うーっさぶ！ 11月の宍道湖って、こんなに寒いのか！』

京都発出雲市行きの夜行バスで6時間、中途半端な目覚めのまま松江駅から西へ歩いて湖岸に到着した時の実感だ。

『そりゃそうだ、いつもは隠岐への帰省の途中に立ち寄る真夏だからな。同じ早朝6時でもこの時期になると、厳しい寒さの山陰の冬を感じるなあ。』

まだ薄暗い湖畔に立ち、そんな季節のギャップを思いながらお昼までの時間の過ごし方を考える。いや、もう考えてある。

『久しぶりの松江の街だから、効率よくいつものようにレンタサイクルを借りて走れば、城北エリアの大概は見回れるだろう。そのあとはいつもの温泉で朝湯につかりサッパリするのだ。』さっそく電動自転車を借りるべく白潟公園内を歩いて宍道湖大橋北詰にあるホテルに向かう。

フロントでレンタサイクルを申し込むと「申し訳ありませんが、本日はご宿泊のお客様以外の方にお貸しできる自転車をご用意できません。」と丁寧な返事が返って来た。家族連れの宿泊客への貸し出し予約でいっぱいなのだ。新型コロナの蔓延で我慢を強いられてきた人達が久々の家族旅行で来ているんだな。観光業界が潤えば経済効果も大きく喜ばしいことだ。

『あきらめよう、ここでゴネてる場合ではない。』……ともあれ、お風呂には入りたい。

「お風呂は何時から入れますか？」

「はい、もう入れますが10時までです。」

『今7時、同窓会の受け付けは11時からか・・・お風呂にはゆっくり入りたいし・・・』

思考を巡らす。『8年ぶりの同窓会に遅れてはカッコ悪い、観光は縮小だ。』入浴を予約してフロントに荷物を預けてすぐに出発する。

早朝の松江の市街地を歩いての観光は初めてだ。しかし、それはそれでなかなか良い。ホテルを出て須衛都久神社の境内を通り過ぎ、すぐに茶町の通りを歩く。高校生当時以来だ。いつも宍道湖側からしか見たことがない國揮酒造の表玄関。『こんなにも重厚な趣のある建物だったんだなあ』『一年生の時同じクラスだったあの子の家もここに近かったな。』

京店まで来て左折し京橋川沿いに出る。『お、こんな見たことないぞ！』木製の長いカウンターが川沿いに設置されていて[WATER TERRACE]と書いてある。これはいいな、水辺のテラスか！水の都にふさわしいアイデアだ。見た目がいいし夏なんか若いカップルでいっぱいになるだろうな。夕涼みがてらのデートには最高だ。聞くところによるとこの木造りのカウンター、総長150mもあるという。松江の名所になるといえるなあ。『そうだ、持ってきたおにぎり、ここで食べよう。』寒いが雰囲気がいいので決めた。

そうこうして簡単な朝食を済ませ殿町を北上、お城へ向かう。堀川沿いの松と、水面に遊ぶ水鳥を眺めながら、リニューアルして白木が美しい北惣門橋を渡って城内に入る。ここまでくると天守は見上げる状態になるが、これが勇壮で実に力強い。『いいお城だなあ。』なんとも誇らしい気持ちになる。

散歩するひとと何人もすれ違う。旅人のにおいがするのが挨拶をしてくれる人もいる。『いいなあ、こんな場所を散歩出来て・・・羨ましい限りだ。湖岸の平坦な遊歩道も好きだが、起伏に富んだお城の周りもいい。天守を正面から眺めたかったが開門前なのであきらめ、松江神社と興雲閣の由緒書きを読みながらゆっくりと過ぎ、『さて、どこから外に出たいものか？』と迷っているところに坂道を登ってくる初老の男性と出会う。『このひとに聞いてみよう。』

「この道を下がって行ったらどこに出ますか？」「県庁の中に出ますよ。」

ん？ そういえば島根県庁は松江城の三の丸跡地に建っているんだった。色んなことに気づく。

『ここから出ればホテルも近いな。』よしと坂道を下るが、ここでまた発見！ 実に奥ゆかしいお堀端の紅葉は見とれてしまうほどだ。派手過ぎず、程よく天守を引き立てている。

そして時空の境目、そこに橋がある。異空間からの出口、現実世界の入口だ。

由緒書きを読むと橋の名前がわかった。『これが千鳥橋か！』いよいよソレートを通って来たものだ。観光の締めとしては最高だ。県庁の敷地から振り返ると、何とも言われぬ美しい天守閣が見送ってくれていた！ 何度もう振り返ってしまう。この街はいい！ ひとの心を平和に穏やかにする。

さあ、ホテルに戻り、嫁ヶ島の浮かぶ宍道湖を眺めながらゆっくり湯に浸かって身も心も温もって同窓会に向かう！

何年振りかで、懐かしい神々にまた会うのだ。

2023年11月19日 晴れ



初めて近畿双松会総会に参加して

23・理2期(昭47卒)山崎 徹(神奈川県)



(写真:慶應大学HPより)

近畿双松会設立 65 周年おめでとうございます。

私は神奈川県に住んでいますが、大学が京都だったので、毎回近畿地区の同期会に参加させてもらっています。またそのメンバーを中心に全国の同期有志が加わった LINE 上の同期会がありますが、コロナが始まってからは、オンライン「元気確認会」を「毎月」開催しています。写真は、2024 年 1 月のもので、松江、広島、神戸、大阪、京都、そして、神奈川から私が参加しました。中央には、松江の同期が経営する旅館でのリアル新年会からの参加者数名が写っています。



さて、昨年近畿地区の同期から、「今年は近畿双松会が設立 65 年目の記念の年で、小泉凡先生の講演会がある。」と聞き、是非先生と話したいと思って、初めてですが近畿双松会総会に参加させてもらいました。なぜ先生と話したいと思ったか、それは私の会社及び 2 つの大学での仕事に関係していますので、キャリア紹介も兼ねて説明します。

私が(旧)富士ゼロックスで IT 系の研究所を担当していた時の研究テーマのひとつに「GPS を利用したス

マホによる観光音声ガイド」サービスの基本技術がありました。定年になると同時にそのサービスが商品化されたので、会社だけでなく故郷の観光へも貢献したいとの思いから、島根県での営業活動を希望し、再雇用してもらいました。

島根県では、市町村の観光関連部署等に「売り込み」をし、津和野町での「日本遺産センター」内展示物の説明用途(写真:利用方法を高校生に説明しているところ。中国新聞記事より)を始め、幾つかの地域・用途で契約をいただきました。(注:このサービスの販売は数年前に終了)そして松江市での営業活動をする中で、小泉八雲の「怪談」に出てくる場所を「夜」訪れるガイドツアーがあり、それもガイドは小泉凡先生ご自身がされている、ことを知ったのです。



そこで、当時会社の仕事と並行して慶應大学で指導していた社会課題解決のテーマの一つ「芸術を利用した地域振興」の方策として、さらに会社と慶應大学での仕事が65歳で終了した後松本大学で担当した観光関連の「特別講義」の中でも、「聖地巡礼」の良い事例として「夜」の怪談ツアーを紹介

したのです。なぜなら、地域振興の立場からは、「夜」のツアーでは参加者は必ずその地域に宿泊することになり、関連して多くのお金が地域に落ちるからです。

昨年70歳でその「特別講義」も終了したのですが、「夜」の怪談ツアーは、何年にも渡って学生たちに紹介してきたので、特に事業継続性についてはとても気になっていました。

そこに今回、小泉凡先生の講演を聞ける機会を頂けたのです。講演会後の懇親会の時に直接話をさせていただくことができました(写真:同期の撮影)。そしてガイドのなり手も見つかってツアーは継続されると同じ安心した次第です。

懇親会自体も、コロナ始まって以来続くオンラインではなく、リアルに近畿地区の同期と会って話すことができ、とても楽しいものでした(10名参加で最多だったとのこと。8ページ参照)。

最後に、今回の小泉凡先生の講演を企画して下さいました近畿双松会の皆さまに厚くお礼を申し上げます。今後もこのような機会があったら是非参加させていただきたいと思っています。今後の近畿双松会のますますの発展を祈ります。



川の流れるように

23 期(昭 47 卒) 渡辺 都(京都市)



昨年の 4 月に私は古希を迎えました。思えばちょうど 20 年前にこの冊子に「ハーフセンチュリー」という文章を書いて載せていただきました。北高には安来から汽車で通学、まだ一年生の頃は蒸気機関車でした。その時には思いも寄らなかった機関士の方々のご苦労やありがたさを半世紀も生きてようやく感じたことを綴りました。そしてまたあれから 20 年、思い返せばいろいろなことがありましたが瞬間に時が過ぎたと感ずるのも正直なところ です。

私自身、京都に住んでかれこれ 40 年以上の月日が経ちました。街の中心部を流れる鴨川は我が家から歩いてすぐのところにあります。私は二条大橋から眺める鴨川の風景が大好きです。北には山々、川辺には時に葉を落とした木々、また芽吹く新緑の頃、もちろん花がきれいに咲く時季、そして紅葉の季節と、四季折々の変化を眺める贅沢さは格別です。

でも大好きといえば、あの松江の大橋川から眺める夕暮れの景色は、私の中では世界一美しいものに思えます。当たり前には思っていましたが今考えると、まさに西の宍道湖から東の中海に向かって流れる川だからこそ、その季節の移り変わりは素晴らしかったのでしょう。まだ西川津に校舎がある頃、松江駅との間は毎日徒歩であの橋を渡っておりました。なんといっても学園祭の頃、9 月の終わりごろでしたでしょうか……。宍道湖の先に沈みかけた夕陽の赤いグラデーションの夕空、橋の上で見上げると頭上はもう深い青色、そしてこれから私が帰っていく東はもうすっかり夕闇と化し、いくつかが星も瞬いていました。

同級生には幼稚園からずっと一緒だった友人もいますが、高校時代の友の多くは僅か三年間をともに同じ学舎で過ごした仲間。それぞれ進学し、違う場所に住み、また仕事もその後の人生もさまざまでした。ところが関西に住む北高 23 期の仲間はずっと神戸の震災の年、世の中的に困難の多い中、呼びかけてその都度世話しあう仲間がいて今日までずっと集まりが続いています。毎回会場はかつてのコマーシャルにあった「三都物語」、大阪だったり、神戸だったり、京都だったり。最近では仕事をリタイアした人も多く、また残念なことに何人か悲しいお別れをした仲間もいます。毎年開くこの関西の集まりに、東京や、松江や広島などからも集まってくれる人もいます。昨日今日の出会いではない不思議な結びつきの強さに改めて驚かされます。

私にとっては空ばかり眺めていたような大橋川でしたが、淀みなく流れいずれ中海に・・・最上川などように長く流れる川ではないから人生に例えるのも少し気が引けますが、しかしあの「川の流れるように」の歌詞の如く、先輩の皆さまに習って、ゆったりと流れに身をまかせ、でも充実した日々を精一杯の生きていきたいものです。



高校時代の思い出と自分史

(1)寮生・下宿生外伝

— 松江で暮らしたころ

24 期(昭 48 卒)徳田完二(京都市)



隠岐で生まれ育ったので、高校入学にともなって親元を離れ、高一では寮生活、高二からは下宿生活だった。

女子寮は西川津校舎と同じ敷地にあったが、男子寮はなぜか楽山公園のそばの民間アパートを転用したものだった。そこは二年生までしか寄宿できないというルールがあり、仁多郡、飯石郡、隠岐郡など県東部各地から来た寮生が二十人くらいいた。部屋は変則的な形の五畳ほどの個室で、裸電球がぶら下がる少々殺風景なところだった。

同じ寮生から漫画を借りて読んだり(『少年ジャンプ』が人気だった)、レコード・プレーヤー(ステレオではない)を持っている同級生の部屋で当時流行った曲を聞かせてもらったりした(ザ・ショッキング・ブルーの『ヴィーナス』など)。宿題のわからないところを教えてもらったこともたびたびある。数 I があまり得意でなかったわたしには理数科の同級生や先輩に助けてもらえるのがありがたかった(先輩の K さん、同級生の K 君、感謝です)。

わたしには学校より寮の方が居心地よかった。風呂はもちろん集団で使うので、言うなれば毎日が修学旅行のようなものだった。

いつか楽山公園にある池のフナを釣るのが流行ったことがある。勝手に釣ってもよかったのかどうか、今から思うと大いに怪しい。釣り道具をどうやって手に入れたかは思い出せないが、何人かで釣ったフナはそれなりの数になった。寮の周囲に小さな水路があったので、釣ったフナはそこに「放流」した。しかし…。

明るく朝、水路を見てみると、フナはことごとく腹を上にして浮かんでいた。愕然とした。水質のせい(酸素不足のせい)かわからなかったが、かわいそうなことをしたと思った。

二年生になるとき下宿に移ることにした。寮よりもだいぶ遠くなるが、三食付きで下宿代が安く、わたしを含めた寮生四人が一緒に移るといってそう決めた。下宿生はみんな隠岐出身で、二階の六畳の間にそれぞれ住み、自転車で通学した。

その下宿は、朝酌の手前の西尾町にあり、小さな丘に建つ松江女子高のすぐ下だった。そばに「女子高前」の屋根付きバス停があったが、それは女子高の向かい側に位置していたため、下宿に帰る時間が女子高生の下校時間に重なると難儀した。道路にあふれ返る女生徒たちの間を自転車ですり抜けなければならなかったからである。そんなとき、わたしにとって彼女らは制服を着た女生徒の巨大な「かたまり」で、それぞれがどんな顔立ちをしているのか識別する心のゆとりはなかった。

二年生の夏。ある暑い夜のことであった。九時ごろだったのではないかと思う。下宿生のうち唯一先輩で、向かいの部屋にいた W さんが、突然わたしのところに来て言った。

「徳田、島大のプール行こう」

彼によれば、夜のプールには誰もおらず、金網のフェンスを乗り越えれば簡単に忍び込めるのだと言う。わたしはそそのかされるまま自転車に乗ると、W さんのあとを追って島大まで飛ばした。



高三時のロードレース。画面中央が筆者。

なお、写真は本文と関係ありません。

かくして、わたしたちは誰にも会うことなく構内に入っ

たのだった。そして、完全に貸し切り状態の五十メートルプールでなるべく音を立てないように泳いだ。暗いプールの水は冷たくて実に気持ちよかった…。

不法侵入だったことは言うまでもない。しかし、スリルはありつつも罪悪感はいほとんどなかった。さいわい、はるか昔に時効を迎えている。帰り道のことは覚えていないが、西尾町と島大がかなり離れていることからして、せっかくプールで涼んだのが台無しになるほど汗だくになって自転車をこいだに違いない。

質実剛健。

文武両道。

こういうスローガンとはなんと縁遠い高校時代なのだった。あーあ。

ちなみに、卒業後は大阪の大学に一年通ったが、期するところがあり北高に戻った。再受験のため補習科に入ったのである。そのときは奥谷町に下宿した。それは春日神社の石段の下にあったので、あたりに女生徒の大群はいなかった。そこでは、一人暮らしをしていた大家のお婆さんとの間で電気代をめぐるトラブルがあったのだが、それはまた別の物語である。



(2) 北海道時代のこと ― 自分史から

自分史などと言うといささか大仰だが、あちこちに移り住んだわたしにとってとりわけ重要な北海道時代のことを軸に、これまでたどってきた道筋の一端を書こうと思う。

わたしは京都の大学を出たあと広島大学の助手として勤めた。その職場は助手のポストしかない部署で、講師以上になりたければほかの大学に転出しなければならなかった。だからいずれはそうするつもりでいた。

大学教員の採用は通常、それぞれの大学の学部や大学院が募集案内を全国の関連大学に送り(教員公募)、応募者の審査(書類と面接)を経て決まる。現在はインターネット上にアップするが、当時は募集案内が各部署へ回覧されることで教員の目に触れるように

なっていた。

広島大学の大学に勤めて五年ほど経ったとき、北海道の大学で講師を募集するという案内が回覧されてきた。それを初めに見たときは「ふうん」と思っただけでして気にもとめなかった。北海道は学生のときに旅行したことがあり気に入ってはいたが、そこに住もうと考えたことなど一度もなかったからである。

しかし、何日か経ってから「待てよ…」と思い直した。そのとき頭に浮かんだのは次のようなことだった。

わたしは隠岐出身だが、そういう「超」僻地で生まれるというのは確率的に相当低いわけで、なぜ自分はそんな「超」低確率の部類に属しているのだろうか、と不思議に感じたことがあるのをまず思い出した。また、有名人が北海道出身と聞くと、なんとなく「いいなあ」と思ったことも思い出した。さらに、生まれる場所は自分で選べないが、住む場所は自分で選べる、とも思った。七十歳くらいまで仕事をするとしたら、三十五歳の今はちょうど折り返し地点だから、ここで思い切ったことをするのはどうだろうか、という考えも浮かんだ。

そして、これまで想像したことなかったが、北海道に移住するのも悪くないのではないかと考えるようになり、日が経つにつれ教員募集に応募してみたいという思いが強くなっていった。

しかし、そのときわたしは結婚して子どももいたので、広島から北海道に移住するのはかなりの「おおごと」なのだった。まず、わたしが北海道に移るといことは妻に仕事を辞めてもらうことを意味した。また、日ごろ子どもたちの面倒を見てもらっていた妻の両親から遠く離れることにもなった。

だから、わたしの思いがすんなり賛成してもらえるとはいかなかったが、何とか周囲を説得し、北海道への移住について了承を得た。

面接審査を経て採用が決まったとき、大学時代の恩師に「北海道の大学に行くことになりました」と電話で報告すると、恩師は「それはまた…」と一瞬言葉を詰まらせた。わたしは教え子の中で一番遠いところに行ってしまう「不孝者」なのかもしれない。

年度途中の着任だったので、はじめは単身赴任をし、年度が変わるのを期に妻子とともに暮らすことになった。住んだのは札幌である。四年ほどしてマイホームも手に入れた。

結果的に、北海道に行ったことは「正解」だったと思う。職場も住んだ地域も居心地がよかったし、北海道の大自然を満喫できた。妻も、移住してから二、三年経った

ころ仕事に就けただけではなく、彼女なりによい仕事をし、いろいろな人とのつながりを築けたようだった。

わたしにとって北海道時代は、子育ての面では一番エネルギーであり、仕事の面では最も充実した時期だったと思う。かくして、北海道はわたしの第二の故郷になり、子どものうち下の二人は文字通り生まれ故郷になった。

しかし、そうこうするうち、わたしの親も妻の親も年を取り、このまま北海道にいたのでは何かあったときすぐ駆けつけることができない……という心配をするようになった。それで関西近辺への再移住を考えはじめた。

そんなとき、たまたま京都の大学で教員募集があり、応募したところ採用してもらえた。ちょうど五十歳の時である。はじめの一年は単身赴任だったが、その後さしいわい妻も京都に職を得ることができ、家族は再び合流することになった。

京都に戻ってから、両方の親を順次見送った。その意味で、北海道を離れたのは「正解」だったと思う。それから後はずっと京都暮らしである。もうほかのところに移住することはないだろう。

テレビで北海道のニュースや景色を見たりすると、かの地で暮らしたころのことが思い出される。天気予報を見ていてもつい北海道に目が向くが、地球温暖化のため北海道の気候はわたしが移住した当初と変わってきているようで、ちょっと複雑な気持ちになる。



美瑛町にて(四十歳ごろ)



札幌の職場にて(四十六歳ごろ)

■「贈る言葉」

松本耕司君(前会長)に感謝して

16期(昭40卒)森藤 哲章(樺原市)



R5年11月亀嵩駅で。奥出雲おろち号のラストランをバックに

松本耕司君とは、平成の初めころ松本君の主催で近畿地区松江北高16期同期会が大阪万博会場近くのパナヒルズ大阪(彼が勤めていた松下電器の保養施設)で行われた時に、案内状が届いたので参加したのが初顔合わせでした。

ソフトな感じでよく面倒を見てくれました。高校時代は1学年が9ルームあり、3年間同じクラスになることはありませんでした。廊下ですれ違ったことはあったかもしれませんが、面識はありませんでした。その後、同期会が同じ場所で松本君の声掛けで2〜3回行われました。

別に、近畿双松会ゴルフ大会の案内状が届き2回ほど参加しました。私はゴルフが下手で周囲を見る余裕はありませんでしたが、先輩方の中に広瀬出身(同郷)で松江中学校第59期卒業の後藤由郎先輩が参加されていたのは認識しておりました。

奈良の都祁(つげ)診療所に医師として勤務していた平成7年頃、診療所に近畿双松会の山本という方(7期の山本雅昭さん。当時事務局長、後の会長)から電話があり、「君の同級生で世話好きの人がいるようだがどんな人ですか?」と問い合わせされたので、「松本耕司と言う人です」と返事しました。

後日、その話を松本君にしたら、「世話好きというだけではこの大きな、歴史ある同窓会を運営していくのはむづかしいよ。どちらかと言えば、旧制松江中学や松江高校の先輩方から、北高になってからはダメにな

ったな、と言われないうにこの『意地』の方が強かったかな？」と笑っていましたが。

その後、仕事の都合もあり同窓会行事には長らく出席できませんでしたが、平成 21 年 11 月、中央電気倶楽部で開催された近畿双松会総会・懇親会に出席できるチャンスがあり参加したところ、松本君が副会長兼事務局長という要職にあり、近畿双松会に親しみを感ずりました。

その後、私は定年を過ぎ少し余裕のある勤務状態になったことや、企画された行事が画期的で楽しいこと、および参加される方々が親しみやすい人ばかりだったことで、総会・懇親会やその他の行事(歴史ウォーキングやハイキング、宝塚歌劇・文楽や落語鑑賞、等)に出来る限り出席するようになり、2 次会にはアルコールに強い松本君といつも一緒に行きました。

平成 26 年 12 月の総会で 11 期の押田会長から松本君に会長のバトンが渡されました。その後も仕事の合間、間に近畿双松会行事には出来るかぎり参加したおかげで、松本君にいろいろと楽しい思い出を作ってもらいました。また、私が会報に文章を載せる時にはいつも添削をお願いしました。松本君は快く的確に添削してくれました。

そして、会長にあること 9 年、いつまでも頑張っ欲しいと思っていましたが、令和 5 年 9 月のメールで、健康診断をしたら病気が見つかり手術することになったと連絡を受け、大変心配をしました。幸い、発見が早かったためうまく治療できたとのことで本当に喜びました。

もともと、その病気とは直接の関係はなく、この数年、松本君は会長の交代を考えており、令和 5 年の総会で交代する準備はできていたようです。ただ、「手術入院の関係で総会には出席できない可能性もあると心配していたが、幸い、総会前には退院でき、無事に自

分も出席しての会長の交代ができた。神仏に見放されなかった」と喜んでいました。

私も、久しぶりに松本君の元気な顔を見ることができた上に無事大役を果たされて、安心しました。しかし、手術をした病気の関係で、今後、お酒は控えなければいけないとのことで、今後も一緒に酒を飲んで話をするを楽しみにしていた私としては本当に残念です。松本君の健康をこわさない程度に誘惑を試みようと思います。

松本君、本当に長い間、ご苦勞様でした。心から感謝を申し上げます。残る人生もお付き合いのほど、よろしく願いいたします。

(追記)

本稿の掲載については、ご当人の松本君から「追悼特集でもないし、私自身のことを過分に褒められて面はゆいので掲載は勘弁してくれ」と言われたのですが、編集者会議の結果、掲載することに決まったとのことです。

ありがとうございました。

(森藤哲章)



(左) 松本耕司君 (右) 私

2023（令和5）年度「運営費支援・寄付・広告」ご協力者ご芳名（敬称略）

近畿双松会は有志の皆様のご支援により運営しています。ここにお名前を記して御礼に
代えさせていただきます。（令和6年2月29日現在）

中68期 荒銀 昌治	高11期 池尻 和子 今井 洋子 押田 良樹 志賀 潔 田中 一男 田村 廸子 中尾 長子 中川 陽子 野津 丞 湯川 好満	高17期 岩本真左子 大石 絹江 岡 久夫 柏木 薫 木島 光子 後藤 研三 永井 貞泰 西野やよい	高23・理2期 朝比奈博則 今西 桂子 小松久美子 橘 千里 西村 充子 松本 幸子 松本 潤 山口 紀子 吉岡 恵子 葭田久美子 和田 邦孝 渡辺 都	高28・理7期 内山まゆみ 高29・理8期 石橋 敏幸 須藤 聖子 達山 暢 福本秀一 山本 修司 高31・理10期 稲葉 育子 小林 満 宍道 弘志 富永 浩 中倉 行彦 若林 武徳
高1期 飯塚 満男 伊藤 雅義 宇藤 二男丸 荏田運三郎	高12期 萩野 貫悟 森 倫也	高18期 稻生 喜子 小田 一美 北村 白雄 桑原 勇 齋藤 孝志 白神知都子	高24・理3期 伊藤 澄夫 岩間 令道 小川ひとみ 河村 敦子 瀬戸口二三子 徳田 完二 水野 順子	高32・理11期 木村 滋樹 田黒 公司 高34・理13期 國清 辰也 脇 由紀子
高2期 堀江真三人	高13期 齊藤 祐子 深澤千栄子 藤田トク子 水野 明代	高19期 池田喜美代 岩田 一志 大久保章子 新見 泰朗 元栄 徹	高25・理4期 飯石 浩康 岡 陽一 富村 誠	高35・理14期 富岡 幸子
高3期 小川 伸江	高14期 片山 伸雄 加藤 巡一 川上 克彦 木村 修芳 小泉 勝是 木幡 晃正 古川 幸孝 宮原 琢郎 三島 幸子 三好 洋二	高20期 小数賀健二 後藤 保美 佐野 和子 平田 まり 三好 資子 物種 慶子 山寄麻里子 渡辺 悟	高26・理5期 伊藤 博之 岩崎 範樹 川谷 徳彦 周藤 達夫 竹谷 祥次 福富由美子 福間 則博 前羽 香江 松村 聡 矢野美紀子	高36・理15期 今宮 一正 高37・理16期 栗山 謙一 高39・理18期 三宅 紀子 高40・理19期 福江 直広
高5期 板垣 衛武 成田 良美 山根 徹	高15期 金坂 喜好 佐藤 修介 真庭 功	高21期 花田 幸久 竹添 則子	高27・理6期 木田 京子 新宮富美子 投石 史子 野口 博也 松田 稚子 三浦 清 吉田 勸	高43・理22期 安達 宏昭 今西 亜子 原島 章 高44・理23期 皆瀬 千恵
高6期 荒木タミ子 萩野 克彦 島田 和子 田村 稔久 森岡 敏真	高16期 井上 伸久 梅木 隆志 神田 俊之 佐々木康雄 田中由美子 坪倉 司郎 中安 節子 松本 耕司 森藤 哲章	高22・理1期 大浦 綾子 木山 洋子 鶴羽 孝子 内藤 清志 内藤 善夫 西村 紀子 永瀬光一郎 松下 和子 村田 貢 吉岡裕美子		
高7期 青戸 俊夫 寺本 好弘 廣政 俣彦 山本 雅昭				
高8期 黒田 牧夫				
高9期 安部 裕子 神 仁人 木村八重子 坂本 隆男 佐々木悦子 澄川 光成 伴 稔也 山岡 裕明				
高10期 面白 紘 佐藤 菁治 佐和田 丸 清水小枝子 清水 義男				

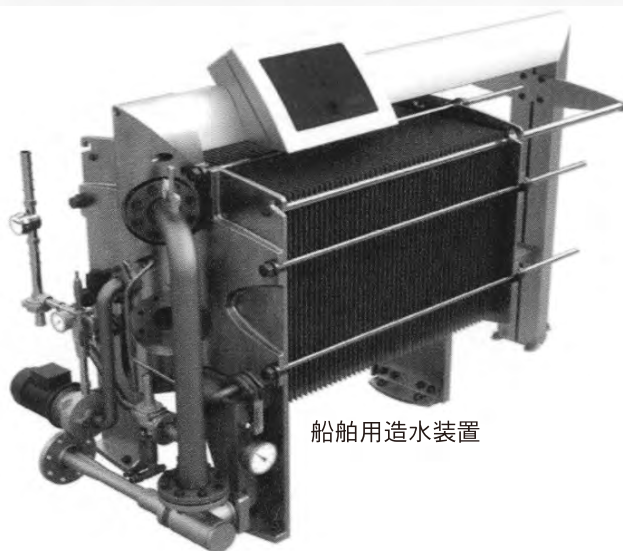
174名
(昨年192名)

(ご不審の点は事務局までご確認ください)

《鉄道車両、船舶、産業機器、ソリューション》



イメージ画像



船舶用造水装置



LEDリモコン
サーチライト



鉄道車両運転台

株式会社
トヨーコーポレーション
TOYO & ENGINEERING CORP.

松江高校7期卒 山本雅昭

本社/〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35 Tel.06-6443-2061 Fax.06-6443-9736
東京支店・豊中工場

©Gestaltung : K.Raum

編 集 後 記

本会の節目に、設立 65 周年記念会報をみなさまにお届けすることができ、ホッとしています。原稿をお寄せいただいた方々に心より感謝申し上げます。また、編集に関わった役員のみなさま、ご苦労さまでした。

わたしにとって会報の編集は初めての経験です。松本前会長から手取り足取り教えていただきながらの作業でした。会員諸兄弟の個性的な原稿を読ませていただいたことは、いろいろ考えるきっかけになりました。たとえば、同窓会の会報ではどういうテーマやトピックが似つかわしいかなどです。また、原稿を読みながら投稿者の来し方について思いをはせることもありました。自由テーマの原稿には顔写真がついており、それを見ると、投稿者のお人柄が何となくうかがえる気もしました。

送られてきた原稿の出来映えをとにかく言うのはおこがましいのですが、「ちょっと手を加えればもっとよくなりそうなのに」と思い、「ここをこうすればいいのではないかと」と頼まれもしないのにあれこれ考えたりもしました。そして、それはけっこう楽しい時間でした。

そんなことをしながら、高次の二学期(だったと思います)、『生徒会誌』の編集委員になったことを思い出しました。当時のわたしも、原稿を書いたり、投稿作品を読んだり、カットを描いたりしたのです。その年の投稿作品は詩ありエッセイあり短編小説ありで、なかなかの力作もありました。西川津校舎のすぐ前の店で買ってきたアツアツの「あんまん」を食べながら議論や作業をしたあの日々——。そう言えば、あの店の名前は何と言ったのでしょうか？ それを思い出せないのがちょっと残念です。

なお、本会ではホームページでも随時自由投稿を受け付けています。そちらの方もどうかよろしくお願いします。

2024.3.31 近畿双松会会長 徳田完二(24 期)

この会報を入手ご希望の場合、またご質問は下記専用アドレスまでご連絡ください。

メールマガジンの受信希望、LINE@の登録についてのご質問もこちらまでどうぞ。

また、メールアドレスの登録もぜひお願いします。

近畿双松会専用アドレス : master@kinki-soushoukai.org



ホームページ



メールマガジン



LINE@

近畿双松会報

2023 (令和 5) 年度版

通巻 65 号

発行日 / 令和 6 年 3 月 31 日

発行者 / 近畿双松会 : [ホームページ / kinki-soushoukai.org](http://kinki-soushoukai.org)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1 - 21 - 35

(株) トーヨーコーポレーション内

TEL. 06 - 6443 - 2062 FAX. 06 - 6443 - 9736

郵便振替口座 / 00910 - 0 - 103665 近畿双松会